

第5章 基本方針ごとの施策



本県の特徴を生かした環境教育

基本方針Ⅰ-1 チーム学校の基盤となる組織力の強化

全ての学校において、校長のリーダーシップのもとで教育目標の実現や課題の解決を図るための組織マネジメントが効果的・効率的に推進される組織体制を確立します。そのうえで、授業力の向上や生徒指導の充実等を目指して教員同士が主体的に学び合い指導力を高め合うとともに、外部の専門家や地域の人材の力も活用しながら、組織的・協働的に取組を進める「チーム学校」としての体制をさらに強化します。

対策Ⅰ-1-(1) 学校の組織マネジメント力を強化する仕組みの構築

【現状・課題】

- ・学校経営計画に基づき組織的に取り組むことへの意識は高まってきたものの、PDCAサイクルによる取組の進捗管理や検証・改善の内容の質には、まだ課題がみられます。

【対策のポイント】

- ・各学校において、校長を中心とした組織マネジメントが効果的・効率的に行われるよう、学校組織の在り方検討委員会の報告（令和2年1月）も踏まえ、管理職等を対象とした研修の充実を図るとともに、各学校への訪問指導等により、学校経営計画に基づく実践を支援します。

【主な取組】

- ①管理職の組織マネジメント力を高めていくため、主幹教諭から校長までを対象とする、学校組織マネジメントと人材育成を柱とした体系的な研修プログラムの充実を図ります。また、中堅層の教職員が、研修プログラムの一部（今日的な教育課題やリーダーシップに関する研修）を受講できる機会を設定し、マネジメント力を有するミドルリーダーを計画的に育成します。

＜具体的な事業＞ No.1 管理職等育成プログラム

- ②全ての学校で全教職員が学校の目標や課題を共有し、方向性をあわせて取り組むため、教職員が参画して学校経営計画を策定し、PDCAサイクルを回しながら「チーム学校」として組織的に学校運営を行っていきます。こうした取組を支援するため、小・中学校に対しては各教育事務所の「小学校教科担任制・組織力向上アドバイザー」が、また、県立学校に対しては、アドバイザーや指導主事等で構成する「学校支援チーム」が学校を訪問し、学校経営や授業改善に関して管理職への具体的な指導・助言を行います。さらに、中学校においては「教科のタテ持ち」校を対象に、主幹教諭連絡協議会を開催し主幹教諭の役割を確認するとともに、指示や報告がスムーズに行われる「ライン機能」の強化と組織的な授業改善を一層推進します。

＜具体的な事業＞ No.2 学校経営を基盤とした組織力の強化

No.3 マネジメント力強化事業(学校経営計画の充実)

各市町村教育委員会における学校事務の共同実施組織を拡充し、教員への支援機能を一層強化するとともに、事務職員の異動を活性化することにより、配置された事務職員が組織的な意思決定、事務処理の手法等を学ぶ機会を増やします。また、市町村教育委員会における公立学校事務職員の職務内容の明確化を促進し、その専門性を生かして主体的・積極的に学校経営に参画できる体制づくりを進めるとともに、事務職員の資質・能力の向上に資する研修の充実を図ります。

< 具体的な事業 > No.4 学校事務体制の強化

学校における働き方改革を進めるうえで、組織マネジメント力の向上を図るため、管理職等を対象とした研修及び若年者向けのタイムマネジメント研修の実施や、他の自治体等の好事例の周知などを行います。あわせて、市町村教育委員会や学校の取組の進捗状況の把握を行い、各学校における勤務時間管理の徹底を図るとともに、定時退校日の設定などの取組を促進します。また、保護者や地域等の学校における働き方改革に対する理解増進のための啓発を行います。

< 具体的な事業 > No.5 学校組織のマネジメント力の向上と教職員の意識改革

個々の児童生徒への指導・支援の充実に向けた学校組織体制の改善・強化を図るとともに、きめ細かな指導を行っていくため、小・中学校の全ての学年を35人以下とし、効果的・効率的な教職員の配置に取り組むとともに、引き続き、国に対して教職員定数の改善・充実に提言します。

< 具体的な事業 > No.5 学校組織のマネジメント力の向上と教職員の意識改革

学校現場の負担軽減のため、県教育委員会の調査や照会、事業、研修等について精選を行い、削減や簡素化を図るとともに、各学校における行事や業務の見直しに向けた取組に関し、先進的な事例の情報提供などの支援を行います。また、統合型校務支援システムや自動採点システムをはじめとするデジタル技術の活用により、業務の効率化を進めます。

< 具体的な事業 > No.6 業務の効率化・削減

【対策の指標】

対策 -1-(1)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している小・中学校の割合 (「よくしている」と回答した学校の割合)	・小:22.8% ・中:23.5% (R4 国調査)	全国平均 ・小:29.3% ・中:28.8% (R4 国調査)	・小:40%以上 ・中:40%以上 かつ全国平均以上
学校経営計画の年度末評価結果がB(目標を概ね達成)以上の高等学校の割合	100% (R4 県調査)	94.4% (R3 県調査)	100%

対策 -1-(2) 教員同士が学び合い高め合う仕組みの構築

【現状・課題】

- ・学校経営計画等に基づき、学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組む体制が定着しつつあります。
- ・現在、小学校における教科担任制の導入により、小中9年間を見通した専門的な教授や、複数の教員が授業を行うことによる多角的な児童理解、そして児童生徒と向き合う時間の確保等の成果・効果がみられ始めています。
- ・複数の教員が学年をまたがり同じ教科を担当する「教科のタテ持ち」や、小規模校における教科の枠を越えて教員同士が学び合う「教科間連携」を導入してきた中学校では、日常的なOJTが活性化し、組織的な授業改善や授業力向上のための取組が進んでいるものの、質の面では学校により差がみられます。
- ・小学校では、組織的・協働的な学校づくりに向けた取組が各学校に任されており、組織的なOJT機能が弱い学校がみられます。
- ・県立学校では、主幹教諭の配置により円滑な組織運営につながっていますが、人材育成の面では十分な成果が得られていません。

【対策のポイント】

- ・全ての学校において、学校種や学校規模に応じたOJTの仕組みを構築することにより、教員の資質・指導力の向上や授業改善等に向けた各学校の組織的・協働的な取組を推進します。

【主な取組】

全ての小学校において、学校の規模に応じた教科担任制を導入し、中学校との連携による、義務教育9年間を見通したきめ細かな指導や授業を推進します。【再掲 P45】

<具体的な事業> No.2 学校経営を基盤とした組織力の強化

全ての中学校において、学校規模や教員の配置に応じて「教科のタテ持ち」や「教科間連携」、あるいは、その両方を組み合わせた取組を実施し、教員同士の学び合いによる組織的・協働的な授業改善等の取組を推進します。【再掲 P45】

<具体的な事業> No.2 学校経営を基盤とした組織力の強化

小・中学校における小中連携や学力向上等の取組の質の向上を図るため、各教育事務所に配置した「小学校教科担任制・組織力向上アドバイザー」が学校を訪問し、管理職に具体的な指導・助言を行います。【再掲 P45】

<具体的な事業> No.2 学校経営を基盤とした組織力の強化

小・中学校において、若年教員をはじめとする教員の資質・指導力の向上を図るため、経験豊富な教員がメンター（助言者）として若年教員の学級経営、授業づくり等について指導・助言しながらチームで学び合う「メンター制」の取組を推進します。

高等学校、特別支援学校において、校長を中心とした組織マネジメント力のさらなる強化に向けて、主幹教諭を配置するとともに、主幹教諭を総括育成担当者として位置付け、若年教員の指導に携わる仕組みを確立します。

<具体的な事業> No.7 主幹教諭の配置による組織力強化

【対策の指標】

対策 -1-(2)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組を行っている小・中学校の割合(「よく行った」と回答した学校の割合)	・小:12.0% ・中:40.2% (R4 国調査)	全国平均 ・小:22.0% ・中:34.4% (R4 国調査)	・小:50%以上 ・中:50%以上 かつ全国平均以上
主幹教諭等を中心に教員同士が学び合う仕組みが構築できている高等学校の割合	95.8% (R4 県調査)	86.0% (R3 県調査)	100%

対策 -1-(3) 地域との連携・協働の推進

【現状・課題】

- ・地域学校協働本部やコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)等の設置・導入が着実に進む中、保護者や地域の方が学校のさまざまな活動に参画する割合は増加しており、大人と子どもたちとの交流が地域の活性化につながる事例もみられます。
- ・子どもたちに関わる課題が多様化・複雑化する中、学校だけの対応には限界があり、地域ぐるみで子どもを見守り育てていく体制の一層の充実が求められます。

【対策のポイント】

- ・学校と地域の連携・協働による教育活動の充実を図り、「地域とともにある学校づくり」を推進するとともに、幅広い地域住民等の参画を得て地域全体で子どもを見守り育てる取組を進めます。

【主な取組】

「地域とともにある学校づくり」に向けて、保護者や地域住民等が学校運営に参画する仕組みであるコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入を促進するため、未導入の市町村や学校への周知・啓発及び導入に向けた支援を積極的に行います。

<具体的な事業> No.8 コミュニティ・スクールの推進

学校と地域が連携・協働して、地域ぐるみで子どもたちを見守り育てる地域学校協働本部の取組を推進し、地域住民等の参画による学習支援や体験活動の実施など、さまざまな地域学校協働活動を支援します。【後掲 P90】

<具体的な事業> No.87 地域学校協働活動推進事業

地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの一体的な推進に向け、制度理解や機能強化などの促進を図る研修会を行います。【後掲 P90】

- < 具体的な事業 > No.87 地域学校協働活動推進事業
- No.8 コミュニティ・スクールの推進

【対策の指標】

対策 -1-(3)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
コミュニティ・スクールを導入している小・中・高等・特別支援学校の割合	・小・中:53.8% ・高:51.5% ・特:100% (R4 県調査)	全国導入率 42.9% (R4 国調査)	100%
地域学校協働本部の設置率(小・中学校)【後掲】	96.4% (R4 県調査)	全国平均 69.2% (R4 国調査)	100%
保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している学校の割合(「よく参加している」と回答した割合)	・小:48.9% ・中:17.6% (R4 国調査)	全国平均 ・小:51.5% ・中:24.3% (R4 国調査)	・小:70%以上 ・中:50%以上 かつ全国平均以上

対策 -1-(4) 外部・専門人材の活用の拡充

【現状・課題】

- ・学校が抱える課題や教育に対するニーズが多様化するとともに、教員が対応する業務が多岐にわたり、多忙化が指摘されている中で、児童生徒一人一人に対して効果的な支援を行うためには、学校外の専門人材を活用しながら「チーム学校」として組織的に取り組んでいく必要があります。

【対策のポイント】

- ・学校全体の教育力を高め、児童生徒を取り巻くさまざまな教育課題に対応するため、多様な人材の参画による、それぞれの専門性を生かした支援体制を構築します。

【主な取組】

相談支援体制の充実・強化を図るため、心理の専門家であるスクールカウンセラーや、社会福祉等の専門的な知識・技術を持ったスクールソーシャルワーカーを全ての公立学校に配置し、効果的な活用を推進するとともに、ニーズや課題にあわせた重点配置を進めます。また、課題を抱える児童生徒一人一人の状況に応じた支援の充実を図るため、市町村の教育支援センターにおいてスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーが積極的に働きかけを行うアウトリーチ型の支援を行います。【後掲 P70】

- < 具体的な事業 > No.55 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用事業

市町村や小・中学校が放課後等の補充学習を計画的に実施できるよう、「放課後等学習支援員」の配置に対する支援を行います。

- < 具体的な事業 > No.9 放課後等における学習支援事業

高等学校等における生徒の学力の状況に応じたきめ細かな学習指導・支援を充実させるため、地域の人材や大学生等による「学習支援員」を配置し、放課後補習や授業支援の充実・強化を図ります。【後掲 P55】

< 具体的な事業 > No,23 学習支援員事業

各学校における部活動指導の充実を図るとともに、教員の部活動に係る負担を軽減し、生徒と向き合う時間を確保するため、専門的な指導ができる「部活動支援員」の派遣や、単独での部活動指導や学校外での活動の引率なども可能な「部活動指導員」の配置を進めます。また、スポーツ庁及び文化庁が示す「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、地域・学校の実情に応じた学校部活動の地域連携・地域移行の在り方等を検討し、それを踏まえた地域のスポーツ環境の整備等のための支援を実施します。【後掲 P65】

< 具体的な事業 > No,49 運動部活動指導員配置事業

No,50 文化部活動指導員・支援員の活用

No,48 運動部活動の運営の適正化

教員の専門性を必要としない業務に従事する「教員業務支援員」の配置を拡充し、業務負担の軽減を図ることで、教員がより児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備し、学校教育活動の充実につなげます。

< 具体的な事業 > No,10 教員業務支援員活用事業

いじめをはじめとする生徒指導上の問題について、法律の専門家である弁護士(スクールロイヤー)を学校等に派遣し、その専門的知識・経験をもとに、法的側面から学校を支援する体制を整えます。【後掲 P62】

< 具体的な事業 > No,43 いじめ防止対策等総合推進事業

【対策の指標】

対策 -1-(4)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
校内支援会において専門家の見立てをもとに支援方法等が決定されている学校の割合【後掲】	・小:100% ・中:99.0% ・高:100% (R4 県調査)	・小:98.9% ・中:99.0% ・高:97.3% (R3 県調査)	・小:100% ・中:100% ・高:100%
放課後等における学習支援の実施校率【後掲】 (県立学校は、学習支援員の配置を希望する学校への配置率)	・小・中:98.5% ・県立:100% 県立は 34 校対象 (R4 県調査)	・小・中:98.9% ・高:100% 高は 31 校対象 (R3 県調査)	・小・中:100% ・県立:100%
運動部活動指導員を配置した学校において運動部活動指導員が単独で指導した部活動時間の割合 運動部活動指導員の配置上限:11h/週	・高:79.3% (R4.12 月時点) (R4 県調査)	・高:49.3% (R3 県調査)	・高:80%以上

対策 -1-(4)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
教員業務支援員配置校における教員の時間外在校等時間の削減率(配置の前年度から令和5年度までの期間の対前年度比)の平均が3%以上の学校の割合	・小:27.1% ・中:55.6% (R4.4~R5.1月) (R4 県調査)	・小:73.9% ・中:63.6% (休校期間の4,5月を除く6~1月において比較) R2 コロナ対応追加配置25校+R3新規配置校7校を除く (R3 県調査)	・小:100% ・中:100%

対策 -1-(5) 質の高い教員の確保・育成

【現状・課題】

- ・教員の大量退職・大量採用時代を迎える中で、近年、多忙化への敬遠などから教員志望者が減少傾向にあり、全国的に教員採用候補者選考審査における受審者の確保が困難な状況にあります。
- ・経験の浅い若年教員の比率が急激に高まっている中、将来にわたり本県の教育水準を高めていくためにも、若年教員の資質・指導力の向上は必要不可欠です。
- ・教員免許更新制の発展的解消に伴い、教員の学びの機会を確保する必要があります。
- ・社会的変化、学びの環境の変化を受け、「令和の日本型学校教育」を実現する「新たな教師の学びの姿」として、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ主体的に学び続けることが重要です。



【対策のポイント】

- ・教員採用候補者選考審査の実施方法や広報の工夫、資質・指導力の向上に向けた採用前後の研修の充実など、質の高い教員の確保・育成のための取組を推進します。
- ・若年教員の学級経営、授業づくり等について経験豊富な教員が指導・助言しながらチームで学び合う「メンター制」等を活用して、若年教員をはじめとする教員の資質・指導力の向上を図ります。
- ・「新たな教師の学びの姿」の実現に向け、県教育委員会が主催する全ての研修等において研修履歴を作成・記録し、当該履歴等を活用して対話に基づくより効果的な受講奨励を行うことができるようシステムを整備するとともに研修の充実を図ります。

【主な取組】

本県が求める資質や能力を有する教員の確保に向け、教員採用候補者選考審査の受審者を増やすため、審査の実施時期や方法について工夫を行うとともに、県外での説明会等の開催など、積極的に広報活動を行います。

<具体的な事業> No.11 教員の人材確保に向けた取組の推進

早期から教育公務員としての意識を醸成し授業づくりの基本を徹底するため、教員採用候補者への講座を実施します。また、臨時的任用教員等を対象とした研修機会の充実を図ります。

<具体的な事業> No.12 採用候補者への啓発(採用前研修)

若年教員の実践的指導力を育成するため、初任者から採用3年目までの若年前期に集中して研修を実施します。また、学校組織の一員としての自覚を促し、組織運営に参加できるよう、学校組織マネジメントに関する研修内容の充実を図ります。あわせて、初任者の指導やメンター制における校内支援体制を充実させるため、若年教員を校内で指導する教員等の指導力向上を図る研修を実施します。

<具体的な事業> No.13 若年教員育成プログラム

中堅教員の実践的指導力及びチームマネジメント力の向上を図るため、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりや、ミドルリーダーとしての意識を高める研修を実施します。また、教員免許更新制の発展的解消に伴い、中堅期以降の教員の学びの機会を充実させるため、新たな研修プログラムの開発に向けた調査研究に取り組みます。

<具体的な事業> No.14 中堅期以降の研修機会の充実

学校の力をもう一段高めるため、高知大学教職大学院や国が実施する中央研修等に現職教員を計画的に派遣することにより、本県の教育課題の解決に向けた取組を先導できる中核教員の育成を図ります。

<具体的な事業> No.15 大学等との連携の強化(高知大学教職大学院との連携)

No.16 学校の力を高める中核人材育成事業

【対策の指標】

対策 -1-(5)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
高知県公立学校教員採用候補者選考審査における採用予定数の充足率(採用数/採用予定数)及び採用倍率(受審者数/採用数)	[採用充足率] ・小: 72% ・中: 104% ・高: 100% [採用倍率] ・小: 9.7 倍 ・中: 7.8 倍 ・高: 8.4 倍 (R4 県調査)	[採用充足率] ・小: 82% ・中: 118% ・高: 124% [採用倍率] ・小: 9.5 倍 ・中: 8.6 倍 ・高: 8.8 倍 (R3 県調査)	[採用充足率] ・小: 100%以上 ・中: 100%以上 ・高: 100%以上 [採用倍率] ・小: 3.0 倍以上 ・中: 3.0 倍以上 ・高: 3.0 倍以上
「高知県教員育成指標」で求められる資質・能力を身につけるための「自己の達成規準」の達成状況	・自己評価: 3.1 ・校長評価: 3.3 3年経験者研修 (R4 県調査)	・自己評価: 3.1 ・校長評価: 3.3 3年経験者研修 (R3 県調査)	・自己評価: 3.1 以上 ・校長評価: 3.1 以上 4段階評価

基本方針 -2 チーム学校の推進による教育の質の向上

児童生徒に知・徳・体の調和のとれた生きる力を育むために、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、自ら課題を見出し、その解決に向けて主体的・協働的に物事の本質を探究する授業づくりを組織的に推進します。

また、不登校やいじめといった生徒指導上の諸課題の予防・解決を目指して、児童生徒の規範意識の向上や自尊感情の醸成、社会性の育成等を図るため、道徳教育やキャリア教育、一人一人の人權が尊重される学校・学級づくりなどの取組を「チーム学校」として組織的に推進します。

対策 -2-(1) 教員の教科等指導力の向上<小・中学校>

【現状・課題】

- ・学習指導要領に沿った研修等の実施により、教員の学習指導要領の趣旨理解は進んできているものの、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善はまだ十分とは言えません。また、令和4年度の全国学力・学習状況調査結果から、特に中学校の学力に課題がみられました。

【対策のポイント】

- ・教員主導の授業から児童生徒が能動的に授業に臨む授業へと改善を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するため、教員が「いつでも・どこでも」学べる機会を数多く設け、目指す授業の具体の姿を共有するなど、学校全体で組織的に教科指導力の向上を図る取組を推進します。
- ・各種学力調査結果から明らかとなった課題の改善に向けて、学力向上のためのP D C Aサイクルを徹底し、授業改善を推進します。

【主な取組】

小・中学校における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習・指導方法の改善、カリキュラム・マネジメントの充実、ICTを効果的に活用した授業の推進を図るため、国語や算数・数学をはじめとする各教科と複式の授業について、主体的・協働的に授業づくりのプロセスを学ぶことができる「授業づくり講座」を拡充し、教員が自ら学び続け、ともに高め合い、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを推進します。

<具体的な事業> No.17 「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト

各種学力調査結果から明らかとなった、国語、社会、数学、理科、外国語の課題改善に向けて、授業改善策を各教科担当が協議する場を設けるとともに、指導主事による訪問を実施し、中学校の授業改善サイクルの強化・充実を図ります。

<具体的な事業> No.18 中学校の授業改善サイクルの強化・充実

小・中・高等学校における一貫した英語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、拠点となる学校を設け、言語活動を中心とした授業モデルを発信します。あわせて、児童生徒が授業で身につけた英語力を活用して地域の魅力を発信する場を設けるなど、英語による発信力の強化につなげる取組を推進します。また、教員の英語力を高める研修の実施や1人1台タブレット端末による英語教育用教材の活用等により、授業の改善を推進します。さらに、ICTを活用した授業と家庭学習のサイクル化を通じて、英語教育の強化を図ります。

<具体的な事業> No,19 英語教育強化プロジェクト

教員の理科の指導力向上を図るため、各地域において授業改善等の取組を推進する中核教員を大学との連携により養成・育成するとともに、実践交流や研修の機会を設けることにより、その活動を支援します。

<具体的な事業> No,20 理科教育推進プロジェクト

県内の児童生徒の約半数が在籍する高知市の小・中学校の学力向上の取組を推進するため、高知市の「学力向上推進室」に県から指導主事等を派遣するとともに、県と市の教育委員会が定期的に情報共有や協議を行う場を設け、高知市内の小・中学校に対する訪問指導体制の充実・強化を図ります。また、「教科のタテ持ち」中学校に対して「組織力向上エキスパート」による訪問指導を行い、組織的な授業改善の推進に向けた支援を強化します。

<具体的な事業> No,21 学力向上に向けた高知市との連携

【対策の指標】

対策 -2-(1)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした学校の割合(「よく行った」と回答した学校の割合)	・小:19.6% ・中:19.6% (R4 国調査)	全国平均 ・小:21.2% ・中:20.7% (R4 国調査)	・小:50%以上 ・中:50%以上 かつ全国平均以上
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと回答した児童生徒の割合(「当てはまる」と回答した割合)	・小:32.9% ・中:36.0% (R4 国調査)	全国平均 ・小:30.5% ・中:31.2% (R4 国調査)	・小:50%以上 ・中:50%以上 かつ全国平均以上
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した児童生徒の割合(「当てはまる」と回答した割合)	・小:37.0% ・中:38.1% (R4 国調査)	全国平均 ・小:37.7% ・中:34.1% (R4 国調査)	・小:50%以上 ・中:50%以上 かつ全国平均以上

対策 -2-(2) 基礎学力定着に向けた取組の充実 < 高等学校 >

【現状・課題】

- ・これまでの取組により、各学校における組織的な授業改善が進み、基礎学力の定着に課題のある生徒の割合の減少につながっているものの、義務教育段階の学習内容が十分に定着しないまま入学し、高校1年生で学ぶ基礎的な学習内容が理解できずに進級している生徒が一定数います。
- ・生徒が学習意欲を喚起し、可能性と能力を最大限に伸ばすため、学習指導要領の趣旨の実現に向けた、さらなる授業改善やデジタル技術を効果的に活用した学習の実践が必要です。



【対策のポイント】

- ・新しい時代に対応した学びの実践に向けて、学習指導要領に基づく授業改善を進めます。
- ・生徒の学力状況に応じたきめ細かな指導を通じて学力の向上を図るため、カリキュラムの見直しや効果的な教材の活用を推進するとともに、アドバイザーや指導主事等で構成する「学校支援チーム」の活動を強化し、授業改善を図っていきます。

【主な取組】

各学校において、全国的に導入されている「高校生のための学びの基礎診断」等を利用して生徒の基礎学力の定着度を測り、その結果を自校の学力向上プランや授業改善の充実につなげる取組を推進します。あわせて、「学校支援チーム」による各学校への訪問・支援を強化し、教科会の充実等により組織的な授業改善の取組がさらに広がるよう教員の意識改革を促進します。

< 具体的な事業 > No.22 学力向上推進事業

実践研究校の教科会や学習評価研究員（教員代表と指導主事）等を中心に、学習指導要領に基づく「指導と評価の一体化」に係る研究を進め、授業や学習評価のポイント等を示した県版参考資料を作成・活用するなど、高等学校における「新たな学び」に向けた授業改善に取り組みます。また、生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図るため、1人1台タブレット端末やデジタルドリルを効果的に活用した授業づくりを推進します。【後掲 P56】

< 具体的な事業 > No.25 授業改善と指導力向上事業

高等学校等における生徒の学力の状況に応じたきめ細かな学習指導・支援を充実させるため、地域の人材や大学生等による「学習支援員」を配置し、放課後補習や授業支援の充実・強化を図ります。また、義務教育段階の学習内容に立ち返りながら高等学校の内容を学習できる教材や、実社会とのつながりを踏まえた学習ができる教材の活用を促進します。

< 具体的な事業 > No.23 学習支援員事業

【対策の指標】

対策 -2-(2)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
学校経営計画における、授業改善が図られている教員の割合 < 高等学校 >	96.8% (R4 県調査)	91.5% (R3 県調査)	100%

対策 -2-(3)	多様な学力・進路希望に対応した指導の充実<高等学校>
-----------	----------------------------

【現状・課題】

- ・高等学校に入学する生徒の学力や進路希望が多様化する中、生徒一人一人の進路に応じたきめ細かな指導が求められます。

【対策のポイント】

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を高め、進路の実現に向けた学力の向上を図るとともに、進学や就職を希望する生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図ります。 |
|--|

【主な取組】

生徒の将来の進路実現の可能性を広げるために、希望する職業に必要な専門的な知識・技能を身につけられるよう、講師の派遣や適切な教材の提供などを通して資格取得などを支援します。

<具体的な事業> No,24 ハイスクールプラン

大学進学を希望する生徒への指導の充実を図るため、指導力に定評のある県外の教員や学習塾の講師を招へいし、模範授業や研究協議の実施などにより、教員の教科指導力や進学に関する指導力の向上を図ります。

<具体的な事業> No,25 授業改善と指導力向上事業

実践研究校の教科会や学習評価研究員（教員代表と指導主事）等を中心に、学習指導要領に基づく「指導と評価の一体化」に係る研究を進め、授業や学習評価のポイント等を示した県版参考資料を作成・活用するなど、高等学校における「新たな学び」に向けた授業改善に取り組みます。また、生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図るため、1人1台タブレット端末やデジタルドリルを効果的に活用した授業づくりを推進します。

<具体的な事業> No,25 授業改善と指導力向上事業

就職を希望する生徒への支援の充実を図るため、卒業生の就職状況の情報収集や分析を行うとともに、就職アドバイザーを配置し、求人開拓や就職に関する個別支援を行います。

<具体的な事業> No,26 就職支援対策事業

グローバルな視点を持って地域の将来や産業を担う人材を育成するため、指定校を中心に探究型学習と英語教育を組み合わせたグローバル教育を推進し、その成果の県内全体への普及を図ります。特に高知国際中学校・高等学校では、論理的思考力、判断力、表現力等を育成する国際基準の教育プログラムである「国際バカロレア」の取組を実践します。また、これらの手法や取組成果を普及させるとともに、国際交流を含む多様な価値観に触れる活動の推進などを通して、県内で広くグローバル教育の充実を図ります。

<具体的な事業> No,27 グローバル教育推進事業

高知県産業教育審議会からの答申に基づき、これからのデジタル社会に対応した産業教育の充実を図り、生徒の資質・能力の育成、教員の指導力向上、関係機関との連携、専門高校の魅力化などに取り組みます。

< 具体的な事業 > No.28 産業教育指導力向上事業

【対策の指標】

対策 -2-(3)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
公立高校卒業生に占める国公立大学現役進学者の割合	14.2% (R3 年度卒)	13.5% (R2 年度卒)	15%以上
公立高校卒業生の就職内定率(全・定・通)	99.4% (R3 年度卒) 96.5% (R5.2 月末)	99.1% (R2 年度卒)	99%以上

対策 -2-(4) 規範意識や自尊感情など豊かな心を育む取組の充実

【現状・課題】

- ・近年高まりがみられた児童生徒の道徳性（自尊感情、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神等）が低下傾向にあり、特に小学校において、その傾向が顕著となっています。コロナ禍で学校行事等さまざまな活動が制約され、自分のよさを自覚したり認められたりする機会が少なくなっていることも影響していると考えられます。
- ・不登校や暴力行為、高等学校における中途退学が依然として全国平均を上回る状況にあります。こうした生徒指導上の諸課題の改善には、児童生徒が人権感覚を身につけたり、共感的な人間関係の中で自分を肯定的に捉えたりすることを通じて、規範意識や自尊感情を育てていくことが重要です。



【対策のポイント】

- ・各学校において、全ての教育活動を通じて、道徳教育や一人一人の人権が尊重される学校・学級づくり等の取組を組織的に推進することにより、児童生徒の規範意識等の向上や自尊感情の醸成を図ります。

【主な取組】

児童生徒の道徳性を育むため、全ての小・中学校において「考え、議論する道徳」が実践されるよう、授業の質的転換を図る研修を行います。また、参観日等における道徳授業の公開や副読本の家庭での活用など、学校、家庭、地域が一体となって道徳教育を推進する取組の充実を図ります。

< 具体的な事業 > No.29 道徳教育協働推進プラン

一人一人の人権が尊重される学校・学級づくりに向けて、「高知県人権教育推進プラン（令和2年改定版）」に基づき、人権教育主任のマネジメント力や教職員の人権感覚の向上を図るための研修を実施するほか、指定校における実践成果の普及等の取組を推進することにより、教育活動全体を通じた人権教育の充実を図ります。

<具体的な事業> No,30 人権教育推進事業

地域全体の子どもたちの自尊感情や自己有用感を育むとともに、人権感覚や社会性、規範意識を醸成するため、モデル地域の教育委員会に「統括推進リーダー」を配置し、保幼小中の連携・接続を強化した取組や、学校と福祉部署との連携による取組などを総合的に推進します。

<具体的な事業> No,31 保幼小中連携モデル地域実践研究事業

【対策の指標】

対策 -2-(4)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
「特別の教科 道徳」において、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童生徒の割合（「当てはまる」と回答した割合）	・小 48.3% ・中 52.0% (R4 国調査)	全国平均 ・小: 42.5% ・中: 43.0% (R4 国調査)	・小: 60%以上 ・中: 60%以上 かつ全国平均以上
個別の人権課題に関する校内研修及び授業研究を年間計画に位置付け、実施している学校の割合	・小: 62.0% ・中: 60.2% ・高: 66.0% (R4 県調査)	・小: 60.4% ・中: 62.1% ・高: 62.0% (R3 県調査)	・小: 100% ・中: 100% ・高: 100%

対策 -2-(5)

目的意識の醸成や社会性の育成に向けた取組の充実

【現状・課題】

- ・児童生徒が主体的に学習に取り組む態度を養うためには、児童生徒自身が自分の将来や学ぶことの意義について考える場面や、知的好奇心・探究心をもって主体的・協働的に問題を解決するような学習活動を多く取り入れることが重要です。
- ・社会生活を営むうえで基礎となる能力や態度が十分身につかないまま高等学校を卒業する生徒が一定数います。
- ・成年年齢の引下げに伴い、生徒の社会参画に向けた教育の充実が必要です。

【対策のポイント】

- ・児童生徒の目的意識の醸成や社会性の育成に向けて、小・中・高等学校を通じたキャリア教育やグローバル教育、探究的な学習活動のさらなる充実を図ります。

【主な取組】

社会人・職業人として自立するために必要な資質・能力を育むキャリア教育のさらなる充実を図るため、小・中・高等学校を通じて、児童生徒が自身の学びを記録し、自己の成長を実感しながら自己実現につなげる「キャリア・パスポート」の活用を推進するとともに、副読本の活用や研修会の実施により、教員の指導力の向上を図ります。

＜具体的な事業＞ No.32 キャリア教育強化プラン

高等学校において、生徒が自分の進路を具体的にイメージしながら将来を設計していくことができる力（キャリアデザイン力）を育成するため、大学や企業と連携・協働し、職場体験や大学・企業見学等の機会の充実を図ります。

＜具体的な事業＞ No.33 キャリアアップ事業

地域と学校が協働して地域の課題解決を探究的に行う「地域協働学習」や、関係機関との連携による主権者教育・消費者教育、起業家教育等を推進することにより、生徒の社会的自立や主体的に社会に参画する態度の育成を図ります。

＜具体的な事業＞ No.34 生徒の社会的自立・社会参画のための支援の充実

（地域協働学習、主権者教育・消費者教育、起業家教育等）

社会で人と人との関わりながら生きていくために欠かせないスキルを生徒に身につけさせるため、より良い対人関係を構築し集団行動を円滑に行うことを目指した活動や、自己管理能力等を育成する「学習記録ノート」を活用した取組などを推進します。

＜具体的な事業＞ No.35 ソーシャルスキルアップ事業

持続可能な社会の創り手となる子どもたちの資質・能力を育成するため、「県脱炭素社会推進アクションプラン」も踏まえ、本県の特徴を生かした体系的な環境教育を就学前・小・中・高等学校等において推進するとともに、環境教育に係る教員の指導力向上や学習機会の充実を図ります。

＜具体的な事業＞ No.36 学びをつなげる環境教育の推進

No.100 学びを支える自然体験活動の推進【後掲 P98】

グローバル社会の中で、児童生徒が郷土への愛着と誇りを持ち、さまざまな課題の解決を目指し、文化や言語の異なる人々と協働できるコミュニケーション能力を身につけられるよう、全ての小・中・高等学校等において、探究的な学びや国際理解・国際親善教育を推進します。また、共生社会の実現に向けて、外国人児童生徒等の教育の充実を図るため、「高知県日本語教育基本方針」に基づく取組を推進します。

＜具体的な事業＞ No.37 グローバルな視点での教育の推進

（学習指導要領に基づく国際理解・国際親善教育の推進）

No.19 英語教育強化プロジェクト【再掲 P54】

No.25 授業改善と指導力向上事業【再掲 P56】

No.38 外国人児童生徒等に対する日本語教育の推進

グローバルな視点を持って地域の将来や産業を担う人材を育成するため、指定校を中心に探究型学習と英語教育を組み合わせたグローバル教育を推進し、その成果の県内全体への普及を図ります。特に高知国際中学校・高等学校では、論理的思考力、判断力、表現力等を育成する国際基準の教育プログラムである「国際バカロレア」の取組を実践します。また、これらの手法や取組成果を普及させるとともに、国際交流を含む多様な価値観に触れる活動の推進などを通して、県内で広くグローバル教育の充実を図ります。【再掲 P56】

< 具体的な事業 > No.27 グローバル教育推進事業

【対策の指標】

対策 -2-(5)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
キャリア・パスポート(キャリアシート)を活用している学校の割合	・小・中:100% ・高:100% (R4 県調査)	・小・中:100% ・高:100% (R3 県調査)	100%
公立高校卒業後、就職した生徒の就職後1年目の離職率	12.2% (R3.3 月卒)	12.2% (R2.3 月卒)	10%以下
3年生4月の進路希望未定の生徒の割合	3.8% (R4.4 月)	3.5% (R3.4 月)	3%以下
本県の特徴などを生かした環境教育に関する取組を実践している学校等の割合	100% (R4 年度)	100% (R3 年度)	100%



国際バカロレア パーソナルプロジェクト発表会（高知国際中学校・高等学校）

対策 -2-(6)	生徒指導上の諸課題への組織的な対応・支援の強化
------------------	--------------------------------

【現状・課題】

- ・各学校においては、不登校やいじめなど生徒指導上の諸課題への対応を図るため、校内支援会等を実施し、教育、心理、福祉の視点からの情報をもとにした手立ての検討が組織的に行われるようになってきましたが、未然防止の観点で組織的・計画的に取り組を進めていくことや校種間の引継ぎに課題がみられます。
- ・児童生徒の言動等の変化に教職員が気付けないことや、気付いていても組織で共有できずに対応が遅れてしまうことにより、問題が深刻化する場合があります。
- ・統合型校務支援システム等を活用することにより、生徒指導上の諸課題への初期対応が効果的に実施できるようになってきましたが、まだ十分に活用できていない学校もあります。
- ・新しい生徒指導提要（令和4年12月改訂）を踏まえて、子どもたちの個性の発見、よさや可能性の伸長、及び社会的資質・能力の発達を支える生徒指導の推進が求められています。
- ・不登校児童生徒の社会的自立に向け、多様な教育機会の確保などの新たな観点による取組の検討が必要です。

【対策のポイント】

- ・保幼小中高の連携による情報共有の強化や、発達支持的生徒指導の推進など、生徒指導上の諸課題の未然防止に向けた組織的な取組を推進します。また、デジタル技術を効果的に活用し、初期の段階から児童生徒の情報を共有するとともに、校内支援会を中心とした組織的な対応を強化することにより、不登校や問題行動の早期発見・早期対応の徹底を図ります。
- ・いじめの事案に対し、「高知県いじめ防止基本方針」に基づき、チーム学校として迅速な対応ができる体制を整えるとともに、関係機関との連携によるきめ細かな支援を徹底します。
- ・これまでの不登校対策等の効果検証を踏まえた取組強化や、児童生徒の主体性を尊重した多様な教育機会の確保策について検討します。

【主な取組】

小・中学校の指定校において、発達支持的生徒指導に組織的に取り組む実践研究を推進するとともに、生徒指導主事（担当者）の研修会等を通してその成果を県内全域に普及し、各学校での実践につなげます。

< 具体的な事業 > No.39 高知夢いっぱいプロジェクト推進事業

管理職や関係教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等で組織する校内支援会を定期的を開催し、専門的な助言を取り入れた具体的な手立てを策定・共有します。また、PDCAサイクルによる支援策の検討を行うとともに、統合型校務支援システムや支援シート等を活用した手立ての共有により、組織的な対応の充実を図ります。

< 具体的な事業 > No.40 校内支援会サポート事業

発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導、困難課題対応的生徒指導が、未然防止、早期発見、早期対応等のそれぞれの場面において組織的に推進されるよう、各小・中・高等学校の生徒指導主事(担当者)の実践力やマネジメント力の向上を図るための研修を実施します。

<具体的な事業> No,41 生徒指導主事会(担当者会)

児童生徒の状況に応じた切れ目のない適切な支援が行われるよう、小・中・高等学校の生徒指導主事(担当者)や養護教諭等が連携し、入学生の情報を共有することや、個別の支援シート等を引き継ぐことにより、保幼小中高間の抜かりない情報共有と連続性のあるチーム支援を実施します。

<具体的な事業> No,41 生徒指導主事会(担当者会)

No,53 親育ち・特別支援保育コーディネーターの配置【後掲 P69】

各小・中学校の不登校担当者が中心となり、統合型校務支援システムや学習支援プラットフォームの「きもちメーター」等も活用して早期発見・早期対応の組織的な取組を推進し、新規不登校の抑制を図ります。また、不登校児童生徒等について、個別最適な支援が継続して行われるよう小学校から中学校へ支援内容の統一・引き継ぎ内容の充実を図り、校区内の連携強化を推進します。

<具体的な事業> No,42 個別最適な支援をつなぐ校区内連携事業

No,78 統合型校務支援システムの活用促進【後掲 P81】

No,73 学習支援プラットフォームの活用促進【後掲 P79】

不登校児童生徒の社会的自立に向けて、不登校特例校の設置についての検討や、教育支援センターの機能強化、フリースクール等の民間団体との連携、1人1台タブレット端末の活用など、多様な教育機会確保のための取組を促進します。【後掲 P71】

<具体的な事業> No,58 不登校支援推進プロジェクト事業

各学校の「学校いじめ防止基本方針」に基づき、校内のいじめ対策組織を中心とした、いじめ防止、早期発見・早期対応の取組の徹底を図ります。また、県民総ぐるみでいじめ防止等の取組を推進するために作成した「『高知家』いじめ予防等プログラム」の活用により、学校や保護者、地域、関係機関が連携した取組の充実を図ります。

<具体的な事業> No,43 いじめ防止対策等総合推進事業

課題予防的生徒指導：全ての児童生徒を対象とした課題の未然防止教育と、課題の前兆行動がみられる一部の児童生徒を対象とした課題の早期発見と対応

困難課題対応的生徒指導：深刻な課題を抱えている特定の児童生徒への指導・援助

きもちメーター：児童生徒が登校後に1人1台タブレット端末を使い今日の気持ち等を送信すると、教員の確認画面で回答を把握することができる。きもちメーターの回答と実際の様子を重ね、心の変化を早期発見したり、対象となる児童生徒への指導・支援の方法を考えたりする高知県独自のツール

【対策の指標】

対策 -2-(6)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
発達支持的生徒指導を進めることにより、「学校に行くのは楽しい」(小・中学校)、「学校生活は充実している」(高等学校)と肯定的に回答した児童生徒の割合	・小:84.8% ・中:81.8% (R4 国調査) ・高:88.3% (R4 県調査)	全国平均 ・小:85.4% ・中:82.9% (R4 国調査) ・高:87.8% (R3 県調査)	・小:90%以上 ・中:85%以上 ・高:90%以上
「『高知家』いじめ予防等プログラム」を活用した研修等を教職員、保護者、地域の方々に対して実施した学校の割合	・教職員対象:94.3% ・保護者・地域対象:90.0% (R4 県調査)	・教職員対象:94.4% ・保護者・地域対象:87.9% (R3 県調査)	・教職員対象:100% ・保護者・地域対象:90%以上
校内支援会において、専門家の見立てをもとに支援方法等が決められている学校の割合	・小:100% ・中:99.0% ・高:100% (R4 県調査)	・小:98.9% ・中:99.0% ・高:97.3% (R3 県調査)	・小:100% ・中:100% ・高:100%
不登校担当者が、児童生徒の出欠状況等早期支援につながる情報を毎日管理職に報告している学校の割合	・小:95.7% ・中:86.7% (R4 県調査)	・小:89.8% ・中:86.4% (R3 県調査)	・小:100% ・中:100%
前年度不登校だった児童生徒のうち、欠席日数が減少した人数の割合	(R4 実績集計中)	-	50%

対策 -2-(7)

健康・体力の向上

【現状・課題】

- ・小・中学校の体力・運動能力は全国水準を維持しているものの、運動の苦手な児童生徒の増加がみられます。
- ・朝食欠食や睡眠不足、運動不足など、望ましい生活習慣の未定着や、感染症対策に係る生活様式の変化による生活習慣の乱れが指摘されています。

【対策のポイント】

- ・小・中学校では、質の高い体育・保健体育授業の実現に向けて、教員の授業力向上を図るとともに、学校全体で体力・運動能力の向上に取り組む体制を整えることにより、運動好きな児童生徒を育てます。
- ・高等学校では、スポーツへの興味・関心を高める取組等を推進することにより、個々に応じたスタイルでスポーツに関わることができる生徒を育てます。
- ・「チーム学校」として関係機関と連携し、専門的見地から健康教育に取り組む体制づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域の連携により健康教育の充実を図ります。

【主な取組】

児童生徒の体力・運動能力向上のため、就学前の取組と連携した義務教育9年間の「体力・運動能力向上プログラム」の実践により、系統的に体力・運動能力の育成を図っていきます。

<具体的な事業> No,44 こうちの子ども健康・体力向上支援事業

体育・保健体育の授業の質を向上させるため、その中核となる教員の育成や外部指導者の派遣、指導力向上に関する研修会の実施、指導主事による訪問指導等を通して、授業改善の取組を推進します。

<具体的な事業> No,45 体育授業の質的向上対策

子どもたちが主体的に健康的な生活を送るための理解を深め、正しい態度を養うために、健康教育副読本や外部講師を効果的に活用し、家庭や地域と連携して性教育、がん教育、食育等の健康教育の充実を図ります。また、新型コロナウイルス感染症対策に係る教訓を踏まえ、関係機関と連携を図りながら、子どもたちの心身の健康を守っていけるような感染症対策を充実させます。

<具体的な事業> No,46 健康教育充実事業

No,59 食育推進支援事業〔後掲 P72〕

【対策の指標】

対策 -2-(7)の指標	現状	参考値	R5年度末の目標数値
1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合 <小・中学校>	・小男: 7.9% ・小女: 13.0% ・中男: 8.6% ・中女: 18.2% (R4 国調査)	全国平均 ・小男: 8.8% ・小女: 14.6% ・中男: 7.8% ・中女: 17.9% (R4 国調査)	全国平均以下
週1日(30分以上)、運動・スポーツをする生徒の割合 (学校の体育の授業を除く) <高等学校>	55.5% (R4 県調査)	全国平均 69.9% (R3 国調査)	全国平均以上 (全国の18・19歳のスポーツ実施率)
毎日朝食を食べる児童生徒の割合	・小男: 81.6% ・小女: 80.4% ・中男: 78.3% ・中女: 72.1% (R4 国調査) ・高男: 75% ・高女: 76% (R4 県調査)	全国平均 ・小男: 82.3% ・小女: 81.1% ・中男: 80.0% ・中女: 73.4% (R4 国調査) ・高男: 75% ・高女: 74% (R3 県調査)	・小・中: 全国平均以上 ・高: 85%以上
肥満傾向児の出現率	・小男: 14.6% ・小女: 11.5% ・中男: 11.4% ・中女: 10.6% (R4 国調査)	全国平均 ・小男: 14.5% ・小女: 9.8% ・中男: 11.5% ・中女: 7.7% (R4 国調査)	全国平均以下

対策 -2- (8) 部活動の充実と運営の適正化

【現状・課題】

- ・生徒の能力・適性、興味・関心に応じた指導が十分に行われていない部活動がみられます。
- ・部活動の部員数が減少し、一つの学校で単独チームが組めないなど部活動運営が年々厳しい状態になっています。
- ・子どもたちの持続可能なスポーツ・文化芸術活動の確保と学校の働き方改革の実現のため、部活動の運営の適正化を図るとともに、学校部活動の地域連携や地域移行の在り方等について検討を進める必要があります。

【対策のポイント】

- ・指導者の資質向上のための取組や、優秀な外部指導者の招へい等により、部活動のさらなる充実を図ります。
- ・「高知県運動（文化）部活動ガイドライン」及び「高知県立学校に係る運動（文化）部活動の方針」に基づき、部活動の運営の適正化を推進するとともに、子どもたちがスポーツや文化芸術の機会を確保できるように、地域連携や地域移行など新しい部活動の在り方を検討し、環境整備に取り組みます。

【主な取組】

県立学校の運動部活動の充実及び競技力の向上を図るため、レベルの高い専門的な指導者やスポーツ医学の専門家を派遣し、指導者の指導力及び資質の向上を図ります。

<具体的な事業> No.47 県立学校運動部活動活性化事業

運動部活動の運営の適正化のため、「高知県運動部活動ガイドライン」及び「高知県立学校に係る運動部活動の方針」に基づく体制整備や、生徒の発達段階に応じた休養日や活動時間の設定など、望ましい運動部活動の推進を図ります。また、顧問教員等の指導者が合理的かつ効率的・効果的な部活動を実施できるよう、県外の優秀な講師を招へいした研修会等を開催します。

<具体的な事業> No.48 運動部活動の運営の適正化

各学校における運動部活動の指導の充実及び質的向上を図るとともに、教員の負担を軽減するために、高知県スポーツ協会との連携や高知県スポーツ指導者バンクの活用により、単独での部活動の指導や引率が可能となる「運動部活動指導員」の配置を拡充します。

<具体的な事業> No.49 運動部活動指導員配置事業

スポーツ庁及び文化庁が示す「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づく取組として、地域・学校の実情に応じた学校部活動の地域連携・地域移行の在り方等を検討し、それを踏まえた地域のスポーツ環境の整備等のための支援を実施します。

<具体的な事業> No.48 運動部活動の運営の適正化

文化部活動の運営の適正化のため、「高知県文化部活動ガイドライン」及び「高知県立学校に係る文化部活動の方針」に基づく体制整備や、生徒の発達段階に応じた休養日や活動時間の設定など、望ましい文化部活動の推進を図ります。

また、文化部活動の指導の充実及び質的向上を図るとともに、教員の負担を軽減するために、単独での部活動の指導や引率ができる「文化部活動指導員」の中学校への配置や、専門的な指導力を有した「文化部活動支援員」の高等学校への派遣を行います。

< 具体的な事業 > No.50 文化部活動指導員・支援員の活用

【対策の指標】

対策 -2-(8)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
「高知県運動部活動ガイドライン」に明記した休養日及び活動時間を遵守している中学校における部活動の割合	・休養日：99.7% ・活動時間：93.9% (R4 県調査)	・休養日：97.6% ・練習時間：92.3% (R3 県調査)	・休養日：100% ・練習時間：100%
「県立学校に係る運動部活動の活動方針」に明記した休養日及び活動時間を遵守している高等学校における部活動の割合	・休養日：95.2% ・活動時間：88.6% (R4 県調査)	・休養日：94.3% ・活動時間：97.3% (R3 県調査)	・休養日：100% ・練習時間：100%



部活動（ソフトボール部）

基本方針 -1 多様な課題を抱える子どもへの支援の充実

学力の未定着、いじめや不登校、虐待や非行などといった困難な状況に直面している子どもたち一人一人に応じた支援の充実を図るため、就学前には保護者の子育て力の向上などを重点的に支援するとともに、就学後は学校をプラットフォームとして、地域や専門機関等との連携・協働体制を県内全域で構築しながら、就学前から高等学校までの切れ目のない支援を推進します。

また、子どもたちの貧困の世代間連鎖を教育の力で断ち切るための取組を推進するなど、社会的自立に向けた支援の一層の充実・強化を図ります。

対策 -1-(1) 社会的自立に向けた就学前から高等学校までの切れ目のない教育の充実

【現状・課題】

- ・コロナ禍等において経済情勢が厳しさを増す中、子どもたちの貧困の世代間連鎖が危惧される状況にあります。
- ・「ヤングケアラー」など厳しい環境にある子どもの中には、支援を必要としながら具体的な支援につながっていないケースや、保護者を含めた家庭生活のサポートが必要なケースがあります。

【対策のポイント】

- ・子どもたちが「経済的自立」を意識した将来の進路目標をできるだけ早期に認識し、そのために必要な学力や職業能力、社会性等を身につけて希望の進路を実現できるよう、キャリア教育や進路指導の充実を図ります。
- ・「ヤングケアラー」や児童虐待など厳しい環境にある子どもたちを支援につなげ、社会で自立できる進路に導いていくために、校内支援体制を強化するとともに、福祉部署との連携を強化します。

【主な取組】

児童生徒が自分の進路を具体的にイメージしながら将来を設計していくことができる力を育成するため、多様なロールモデルの提示やキャリア・パスポートの効果的な活用促進など、キャリア教育の充実を図ります。【再掲 P59】

- <具体的な事業> No.32 キャリア教育強化プラン
No.33 キャリアアップ事業

生徒が将来の自立に向けた進路を選択できるよう、中学校の段階から、職業に必要な能力や資格、進学・就職時の経済支援制度、各高等学校の学習活動などの情報を生徒と保護者にわかりやすく提供するなど、進路指導の充実を図ります。【再掲 P57、後掲 P73】

- <具体的な事業> No.28 産業教育指導力向上事業
No.60 高等学校等就学支援金事業、高校生等奨学給付金事業等

厳しい環境にある子どもを早期に発見し支援につなげるため、スクールソーシャルワーカー等の専門性の活用や確実な情報共有などにより、校内支援体制を強化します。また、学校だけでは発見しづらいこうした子どもの早期把握と対応に向け、スクールソーシャルワーカーと各市町村の福祉部署との定期的な情報共有（情報連携）や一体的な対応（行動連携）の充実を図ります。さらに、ヤングケラーや児童虐待など児童生徒が自らの状況を正確に理解するための取組強化や厳しい環境にある子どもへの理解を高めるための校内研修の実施支援等を行います。【後掲 P70】

<具体的な事業> No,55 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用事業

保育所・幼稚園等において、厳しい環境にある子どもや保護者への早期の対応ができるよう、スクールソーシャルワーカーや親育ち・特別支援保育コーディネーター等と連携した支援の充実や「高知版ネウボラ」との連携強化を図ります。【後掲 P69】

<具体的な事業> No,53 親育ち・特別支援保育コーディネーターの配置

No,54 スクールソーシャルワーカー活用事業<就学前>

対策 -1-(2) 保育所・幼稚園等と家庭や地域等との連携の充実

【現状・課題】

- ・家庭における生活の困窮や教育力の低下等を背景に、さまざまな課題を抱え、個別の支援が必要な子どもや家庭が増えています。
- ・核家族化や少子化等により、家庭と地域との関わりが薄れてきている中で、地域における見守りやきめ細かな支援の充実が求められています。

【対策のポイント】

- ・保育所・幼稚園等と家庭、地域等との連携を強化し、多様な課題を抱える保護者の子育て力の向上を図る支援を充実させます。

【主な取組】

就園・未就園に関わらず、身近な場所で子育て支援が受けられる環境を整備するため、園庭の開放や子育て相談、子育て経験者と子育て世帯等が交流できる場づくりなどを積極的に実施する保育所等を支援します。

<具体的な事業> No,51 多機能型保育支援事業

家庭環境に配慮を必要とする子どもやその保護者への支援の充実を図るため、「家庭支援推進保育士」の配置を推進します。

<具体的な事業> No,52 保育サービス促進事業(家庭支援推進保育士の配置)

高知版ネウボラ：妊娠期から子育て期までの家庭を対象として、妊娠・出産・子育てに関する関係機関によるネットワークを構築することにより、必要な支援サービスを切れ目なくつなぐ高知県独自の仕組み

特別な支援を必要とする子どもや厳しい環境にある子どもへの保育等の質を高めるため、小学校との円滑な接続や関係機関と連携した支援を行うことができるよう、「親育ち・特別支援保育コーディネーター」の配置を推進します。

<具体的な事業> No,53 親育ち・特別支援保育コーディネーターの配置

厳しい環境にある子どもが円滑に小学校に入学できるよう、主に5歳児とその保護者に対して、生活習慣や生活環境の改善に向けた助言や指導等を保育者とスクールソーシャルワーカーが連携して行う取組を進めます。

<具体的な事業> No,54 スクールソーシャルワーカー活用事業<就学前>

【対策の指標】

対策 -1-(2)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
子育て支援体制の拡充に取り組む園の数・割合	・園庭開放又は子育て相談の実施率:98.6% ・多機能型保育支援事業の実施箇所数:15箇所 (R4 県調査)	・園庭開放又は子育て相談の実施率:96.2% ・多機能型保育支援事業の実施箇所数:17箇所 (R3 県調査)	・園庭開放又は子育て相談の実施率:100% ・多機能型保育支援事業の実施箇所数:40箇所
保育所等における家庭支援の計画・記録の作成率	92.0% (R4 県調査)	91.5% (R3 県調査)	100%

対策 -1-(3) 放課後等における学習の場の充実

【現状・課題】

- ・学力が未定着である子どもの中には、家庭における生活の困窮や教育力の低下などを背景に、学校以外での学習の機会が十分でない子どもが多くいます。

【対策のポイント】

- ・小・中・高等学校の各段階において「学習支援員」の配置を拡充し、学校が行う放課後等の補充学習の充実に取り組むとともに、地域の方々の参画を得て、放課後児童クラブや放課後子ども教室など、放課後等における学びの場の充実を図ります。

【主な取組】

市町村や小・中学校が放課後等の補充学習を計画的に実施できるよう、「放課後等学習支援員」の配置を推進します。【再掲 P49】

<具体的な事業> No,9 放課後等における学習支援事業

高等学校等における生徒の学力の状況に応じたきめ細かな学習指導・支援を充実させるために、地域の人材や大学生等による「学習支援員」を配置し、放課後補習や授業支援の充実・強化を図ります。【再掲 P55】

<具体的な事業> No,23 学習支援員事業

放課後等の子どもたちの安全・安心な居場所づくりや学びの場の充実を図るため、放課後児童クラブや放課後子ども教室の設置を促進するとともに、地域住民の参画を得て、学習習慣の定着や学ぶ意欲の向上につなげるさまざまな活動を支援します。【後掲 P90】

<具体的な事業> No,88 新・放課後子ども総合プラン推進事業

【対策の指標】

対策 -1-(3)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
放課後等における学習支援の実施校率 (県立学校は、学習支援員の配置を希望する学校への配置率)	・小・中:98.5% ・県立:100% 県立は34校対象 (R4 県調査)	・小・中:98.9% ・高:100% 高は31校対象 (R3 県調査)	・小・中:100% ・県立:100%

対策 -1-(4) 相談支援体制の充実・強化

【現状・課題】

・子どもたちに関わる課題が複雑化・多様化する中で、生徒指導上の諸課題などの解決を図っていくためには、児童生徒をはじめ、保護者、教職員等の相談に広く対応できる体制の整備が必要です。

【対策のポイント】

・スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの重点配置や専門性の向上、心の教育センターの機能や相談支援体制の強化により、子どもや保護者のニーズに対応した重層的な支援を実現します。

【主な取組】

相談支援体制の充実・強化を図るため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを全ての公立学校に配置し、効果的な活用を推進するとともに、ニーズや課題にあわせた重点配置を進めます。また、課題を抱える児童生徒一人一人の状況に応じた支援の充実を図るため、市町村の教育支援センターにおいてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが積極的に働きかけを行うアウトリーチ型の支援を行います。

<具体的な事業> No,55 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用事業

スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの支援力向上を図るため、より効果的な研修を実施するとともに、心の教育センターをプラットフォームにして、各学校等に配置されているスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーへの支援等を行います。また、校内支援会を運営する教員とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる合同研修会を実施し、相談支援の連携強化を図ります。

<具体的な事業> No,56 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーのアセスメント力向上研修

県内の教育相談の中核機関である心の教育センターに、高度な専門性を有するスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもたちや保護者の相談を一元的に受理するとともに、学校や関係機関との連携のもとで課題の解決まで寄り添う「ワンストップ&トータル」な支援を行います。

<具体的な事業> No,57 心の教育センター相談支援事業

児童生徒や保護者が利用しやすい相談環境づくりに向けて、心の教育センターの土曜日・日曜日の開所や県東部・西部地域での相談室の開室を継続するとともに、多様な課題に対応できるよう相談支援体制の充実を図ります。また、心の教育センターのスクールカウンセラー等との連携などを通して、学校や教育支援センターにおける相談支援の質的向上を図ります。

<具体的な事業> No,57 心の教育センター相談支援事業

不登校等児童生徒に対して学校、教育支援センター、心の教育センターによる重層的な支援体制を確立します。特に学校では、不登校等児童生徒が安心して過ごせる居場所の確保及び個に応じた最適な学びを保障するために、「校内サポートルーム」の設置を拡充するとともに、ICTを活用した学習支援の実践研究を推進します。

<具体的な事業> No,58 不登校支援推進プロジェクト事業

不登校等児童生徒の学習機会を確保するため、市町村の教育支援センターを拠点としたICTの活用による自主学習等の取組を支援します。

<具体的な事業> No,58 不登校支援推進プロジェクト事業

【対策の指標】

対策 -1-(4)の指標	現状	参考値	R5年度末の目標数値
心の教育センターによる教育支援センターでの支援会・ケース検討会等の実施率	100% (R4 県調査)	95.7% (R3 県調査)	100%
校内支援会において専門家の見立てをもとに支援方法等が決定されている学校の割合【再掲】	・小:100% ・中:99.0% ・高:100% (R4 県調査)	・小:98.9% ・中:99.0% ・高:97.3% (R3 県調査)	・小:100% ・中:100% ・高:100%

対策 -1-(5) 地域全体で子どもを見守り育てる取組の推進

【現状・課題】

- ・家庭の厳しい経済状況等を背景に、子どもに向き合う余裕のない保護者や子育てに不安や悩みを抱えている保護者が多くいます。
- ・子どもたちに関わる課題は多様化・複雑化しており、学校や教員だけの対応には限界があります。

【対策のポイント】

- ・学校と地域の連携・協働による教育活動の充実を図るとともに、民生委員・児童委員の参画などにより、厳しい環境にある子どもたちを地域全体で見守り育てる取組を進めます。
- ・放課後等に子どもたちが安全で安心して過ごせる居場所づくりを進めます。

【主な取組】

地域による子どもたちの見守り機能を強化するため、全ての地域学校協働本部において民生委員・児童委員の参画を進め、厳しい環境にある子どもたちの見守り体制を強化した「高知県版地域学校協働本部」への展開を推進します。【後掲 P90】

<具体的な事業> No,87 地域学校協働活動推進事業

放課後等の子どもたちの安全・安心な居場所づくりや学びの場の充実を図るため、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の設置を促進するとともに、地域住民の参画を得て、学習習慣の定着や学ぶ意欲の向上につなげるさまざまな活動を支援します。【後掲 P90】

<具体的な事業> No,88 新・放課後子ども総合プラン推進事業

「地域とともにある学校づくり」に向けて、保護者や地域住民等が学校運営に参画する仕組みであるコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入を促進するため、未導入の市町村や学校への周知・啓発及び導入に向けた支援を積極的に行います。【再掲 P48】

<具体的な事業> No,8 コミュニティ・スクールの推進

朝食摂取をはじめとする望ましい生活習慣に関する意識を高め、子どもたちが朝食の重要性を理解し、自分で食事を選択したり調理したりできるなどの実践力を育むために、地域のボランティアによる食事提供活動及び食育活動を支援し、県内の食育を推進します。

<具体的な事業> No,59 食育推進支援事業

【対策の指標】

対策 -1-(5)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
高知県版地域学校協働本部の仕組みを構築した小・中学校の割合	91.6% (R4 県調査)	80.1% (R3 県調査)	100%
コミュニティ・スクールを導入している小・中・高等・特別支援学校の割合 【再掲】	・小・中:53.8% ・高:51.5% ・特:100% (R4 県調査)	全国導入率 42.9% (R4 国調査)	100%

対策 -1-(6) 経済的負担の軽減

【現状・課題】

- ・家庭の厳しい経済状況を背景に、高等学校等への進学や就学の継続が難しい子どもがいます。
- ・令和元年 10 月から幼児教育・保育は無償化されましたが、その対象は満 3 歳以上の子どもと満 3 歳未満の住民税非課税世帯の子どもであり、満 3 歳未満児を養育する保育利用世帯の多くは経済的な負担を感じています。

【対策のポイント】

- ・高等学校等における就学のための経済的支援や、多子世帯を対象とした保育料の軽減等により、保護者の経済的負担の軽減を図ります。

【主な取組】

経済的な理由で高等学校等の就学が困難となる生徒に対し、就学支援金を支給することにより、授業料の負担軽減を図ります。また、低所得世帯を対象に奨学給付金を支給することにより、教科書や教材費、学用品、PTA会費といった授業料以外の教育費の軽減を図ります。さらに、成績基準がなく貸与月額を選択できるなど、高等学校等の生徒がより利用しやすい無利子奨学金の貸与を行います。

<具体的な事業> No,60 高等学校等就学支援金事業、高校生等奨学給付金事業等

18 歳未満の子どもが 3 人以上いる家庭の経済的負担を軽減するため、市町村が行う第 3 子以降の 3 歳未満児に係る保育料の軽減又は無料化を支援します。

<具体的な事業> No,61 多子世帯保育料軽減事業

経済的に厳しい環境にある子どもが放課後児童クラブ等を利用しやすくするため、就学援助世帯等の利用料減免を行う市町村に対する財政支援を行います。【後掲 P90】

<具体的な事業> No,88 新・放課後子ども総合プラン推進事業

基本方針 -2 特別支援教育の充実

発達障害を含めた全ての障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じた切れ目のない指導・支援の充実を図るとともに、共生社会の実現を目指し、障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶことを志向する「インクルーシブ教育システム」の構築を推進します。また、障害に応じ通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった「多様な学びの場」における学びの質を高め、本県の特別支援教育の一層の充実を図ります。

対策 -2-(1) 障害の状態や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実

【現状・課題】

- ・発達障害など特別な支援が必要な子どもの増加や障害の状態等の多様化がみられる中、個々の状況に応じた適切な指導・支援の充実が求められています。
- ・特別支援学級の担任や通級による指導担当教員は、障害に応じた特別の指導を実施する教員として、より高い専門性が求められています。

【対策のポイント】

- ・全ての保育者や教員について特別支援教育の専門性向上を図るとともに、保育所・幼稚園など、学校における組織的な指導・支援の体制の充実・強化を図ります。

【主な取組】

保育所・幼稚園等における特別な支援を必要とする子どもへの対応力の向上を図るため、保育者を対象とした研修や個別の指導計画の作成を推進します。

<具体的な事業> No.62 特別な支援を要する子どもへの対応力の向上

小・中学校等において、発達障害等のある児童生徒への指導・支援の充実を図るため、ユニバーサルデザイン の視点に基づく学級経営・授業づくりの取組を推進します。また、特別支援学級や通級による指導を担当する教員の専門性の向上に向けて、研究協議会や連絡協議会を実施します。あわせて、教育事務所の特別支援教育地域コーディネーターによる訪問支援等により、個別の指導・支援方法や校内支援体制、校種間の引き継ぎ等について指導・助言を行います。

<具体的な事業> No.63 小・中学校等における切れ目のない支援体制の構築推進

No.64 小・中学校の特別支援学級における教育の質の向上に向けた取組強化

高等学校において、通級による指導を中心に発達障害等のある生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を図るため、教職大学院と連携した研究、指導担当教員間のネットワークの構築などの取組を推進します。

<具体的な事業> No.65 高等学校における特別支援教育の推進

ユニバーサルデザイン：できるだけ多くの人々が利用可能であるようなデザインにすること

発達障害等の特別な支援が必要な児童生徒への指導・支援を充実させるため、全ての教職員の専門性向上を図る研修を実施します。

< 具体的な事業 > No.66 特別支援教育セミナー

【対策の指標】

対策 -2-(1)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
ユニバーサルデザインについて、県が示す5つの重点事項()を全ての教室で実践している学校の割合 県が作成する「すべての子どもが『分かる』『できる』授業づくりガイドブック」に基づいて示されている、例えば「授業のめあてを提示する」等の具体的取組	・小:97.4% ・中:97.3% ・高:93.9% (R4 県調査)	・小:97.9% ・中:96.7% ・高:92.3% (R3 県調査)	・小:100% ・中:100% ・高:100%
「個別の指導計画」が作成され、校内支援会や職員会議における情報共有のもと、組織的な指導・支援が実施されている幼児児童生徒の割合	・保幼:77.2% ・小:86.5% ・中:75.2% ・高:93.3% (R4 県調査)	・保幼:63.6% ・小:78.6% ・中:77.9% ・高:85.3% (R3 県調査)	・保幼:100% ・小:100% ・中:100% ・高:100%
「個別の指導計画」が必要な幼児児童生徒のうち、「個別の教育支援計画」や「引き継ぎシート」等のツールを活用して引き継ぎが行われた児童生徒の割合(第1学年)	・保幼 小:69.5% ・小 中:79.2% ・中 高:46.2% (R4 県調査)	・保幼 小:69.9% ・小 中:75.1% ・中 高:61.2% (R3 県調査)	・保幼 小:100% ・小 中:100% ・中 高:80%以上

対策 -2-(2)

特別支援学校における多様な教育的ニーズへの対応の充実

【現状・課題】

- ・ 障害の重度・重複化等により、特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の教育的なニーズが多様化しています。
- ・ 近年、県立知的障害特別支援学校の生徒の一般企業への就職率は全国平均を超えています。が、個々の生徒の進路希望の実現に向けた取組の一層の充実が必要です。
- ・ 医療的ケア児の実態は多様化しており、個々の心身の状況や教育的なニーズ等に応じて、学校における適切な支援体制の強化が求められています。

【対策のポイント】

- ・ 特別支援学校において、教員の専門性の向上及び組織的な指導・支援の充実を図るとともに、地域の小・中・高等学校の取組を支援するセンター的機能の向上を図ります。
- ・ 障害のある子どもが自分の地域での生活基盤を形成できるよう、居住地域の小・中学校における学習機会の充実を図ります。
- ・ 医療的ケア児が安全な環境で安心して教育・保育を受けられるよう、看護職員等の専門性を高めるための取組を推進します。

【主な取組】

特別支援学校の児童生徒の実態に応じた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、1人1台タブレット端末等のICT機器を児童生徒等が日常的に活用できるよう指導・支援の充実に取り組みます。また、特別支援学校間でオンライン会議を開き、教員同士が障害種ごとの専門性を生かした実践研究の知見を共有することにより、児童生徒の多様な教育的ニーズへの対応を図ります。

<具体的な事業> No.67 学習指導要領の理念に基づいた教育の実践力向上事業

特別支援学校教員の幅広い専門性の向上に向けて、免許法認定講習の受講を促進し、特別支援学校教諭免許状の保有率向上につなげます。また、特別支援学校のセンター的機能の充実・強化を図るため、特別支援学校に理学療法士や言語聴覚士など外部の専門家を配置・派遣します。

<具体的な事業> No.68 特別支援学校等の専門性・教育内容充実事業

特別支援学校在籍の幼児児童生徒が、居住地の小・中学校等において交流及び共同学習を行うことにより、地域社会の障害に対する理解を促進します。また、居住地校交流を活性化するために、副次的な籍（副籍）に関わる仕組みの定着を推進します。

<具体的な事業> No.69 特別支援学校の幼児児童生徒の居住地校交流実践充実事業

児童生徒の社会的・職業的自立に向け、現場実習先及び進路先の開拓を行うとともに、福祉・労働機関と連携した就労支援など、障害や特性に応じた進路指導を充実させます。また、目標に向かって学習する意欲や望ましい職業観を育むために、外部専門家を活用した授業改善や、技能検定の取組を実施します。

<具体的な事業> No.70 キャリア教育・就労支援推進事業

医療的ケア児の教育の充実に向けて、看護職員の専門性向上のための研修の実施や巡回看護師の配置により、サポート体制の構築を図ります。また、小学校等における医療的ケア児の円滑な受入れが進むよう、理解啓発に取り組みます。さらに、医療的ケアが必要な乳幼児を受け入れる保育所等への看護師等の配置を支援します。

<具体的な事業> No.71 医療的ケア児に対する支援の充実

病弱特別支援学校において、慢性疾患の児童生徒数の減少、心身症等のある児童生徒数の増加に伴う教育的ニーズの多様化に対応するため、「高知県立特別支援学校再編振興計画(第二次)」に基づき、高等部の職業コースの開設、通級による指導、訪問教育等の取組を推進し、教育内容を充実させます。

<具体的な事業> No.67 学習指導要領の理念に基づいた教育の実践力向上事業

No.68 特別支援学校等の専門性・教育内容充実事業

副次的な籍（副籍）: 県立特別支援学校の小・中学部に在籍する児童・生徒が、学籍は特別支援学校に置きつつ、居住する地域の市町村立小・中学校に2次的な籍を持ち、直接的な交流や間接的な交流を通じて、居住する地域とのつながりの維持・継続を図るもの

県中央部の知的障害特別支援学校における施設狭あい化等の課題に注視するとともに、引き続き安全・安心な教育環境の実現に取り組みます。さらに、新たに開校した「日高特別支援学校高知しんほんまち分校」の特色や取組を県内の関係者等に知ってもらうための情報発信に取り組みます。

< 具体的な事業 > No.68 特別支援学校等の専門性・教育内容充実事業

【対策の指標】

対策 -2-(2)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
特別支援学校の授業等において、毎日1回以上ICTを活用している児童生徒の割合	全学部:56.4% (R4 県調査)	全学部:33.9% (R3 県調査)	100%
5領域全ての特別支援学校教諭二種免許以上を保有する県立特別支援学校の教員の割合(採用3年未満と人事交流3年未満を除く)	68.9% (R4 県調査)	67.2% (R3 県調査)	90%
特別支援学校小学部の児童の居住地校交流の実施率	63.0% (R4 県調査)	63.6% (R3 県調査)	90%以上



職場見学・体験(日高特別支援学校高知しんほんまち分校)

基本方針 -1 デジタル技術の活用による学びの個別最適化

急速に発展するICTやAI等のデジタル技術を有効に活用し、学習機会の地域間格差の解消や、児童生徒一人一人の興味・関心に応じた学びを実現するため、ICTを活用した双方向型の授業の配信やAIによる個別最適化学習等の新たな教育手法の開発・普及を図るとともに、その基盤となる学校のICT環境の整備を推進します。

対策 -1-(1) ICTやAI等のデジタル技術の活用

【現状・課題】

- ・中山間地域等の小規模高等学校では総じて教員数が少なく、生徒の多様な進路希望に対応した教育課程の編成や学習指導が困難な場合があります。また、小規模の中学校では、特に美術科や技術・家庭科の授業において免許外指導を行わざるを得ない状況です。
- ・現在の学校教育は、理解が十分でない児童生徒と、学習内容を平易と感じる児童生徒が混在する中での一斉授業が原則であり、個々の習熟度に応じた最適な学習指導が難しい状況がみられます。
- ・全国学力・学習状況調査の結果を、同一集団の経年比較でみた場合、学力の定着に課題のある児童生徒の割合は、小学校6年時と比べ、中学校3年時で大幅に増加しており、つまづきを早期発見・解決し、基礎学力の定着を図る必要があります。また、小学校では1人1台タブレット端末を「日常的」に活用している授業実践の頻度が少なく、将来的にICTの活用が必要となる子どもたちの視点に立って、教員のICT活用指導力の向上を図る必要があります。

【対策のポイント】

- ・遠隔教育システムによる授業配信や、基礎学力及び家庭学習の定着に向けたAI等のデジタル技術による習熟度に応じた個別最適な学習など、新たな教育方法の開発と普及・展開を図ります。
- ・1人1台タブレット端末や学習支援プラットフォームの「日常的」な活用により、個々の学ぶ力を引き出し主体的・対話的で深い学びを実現する学習スタイルの確立を目指すとともに、教員のICT活用指導力を高めていきます。

【主な取組】

中山間地域等の小規模高等学校においても生徒が希望する進路を実現するため、教育センターから各校に同時双方向型の授業及び進学補習や資格試験のための講座などを配信します。また、学校相互の遠隔授業等を実施するとともに、市町村や経済団体とも連携して地域課題の解決等に関する探究学習を実践するなど、官民協働で教育水準の向上に取り組めます。

<具体的な事業> No.72 遠隔教育推進事業

教科の専門性を確保するとともに教員の負担軽減を図るため、小規模中学校の免許外指導担当教員（美術、技術・家庭）を対象に、教育センターから遠隔教育システムを活用した支援に取り組みます。また、研究指定地域に免許外支援拠点校を設置して、地域の学校間で相互支援ができる拠点校型遠隔支援の体制を構築します。さらに、児童の協働的な学びを充実させるために、小学校複式学級における遠隔授業に関する研究を進めます。

<具体的な事業> No,72 遠隔教育推進事業

1人1台タブレット端末を活用しながら個々の理解に合わせて段階的に学習を進められるデジタルドリルや、一人一人の学習定着度を把握し学習指導に活用できるスタディログ等を組み合わせた「学習支援プラットフォーム」により、個々の強みを伸ばし、つまづきをサポートする個別指導を実践します。あわせて、子どもたちが主体的に協働して学び合うことができるよう、協働学習ツールの効果的な活用を進めます。また、学習機会確保の促進や授業と家庭学習のサイクル化を図るため、1人1台タブレット端末の持ち帰りによる「学習支援プラットフォーム」等の積極的な利活用を推進します。

<具体的な事業> No,73 学習支援プラットフォームの活用促進

No,17 「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト【再掲 P53】

No,75 デジタル技術を活用した個別最適学習等の充実

No,18 中学校の授業改善サイクルの強化・充実【再掲 P53】

No,67 学習指導要領の理念に基づいた教育の実践力向上事業【再掲 P76】

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるため、デジタル教科書の効果的な活用を推進します。

<具体的な事業> No,74 デジタル教科書の活用推進

児童生徒一人一人のつまづきや強みなど、個々の学習状況と理解度に対応した最適な個別指導の実現に向けて、1人1台タブレット端末やデジタル教材を効果的に活用した授業改善を進めていきます。また、デジタル技術を活用した効果的な学力補完の方策について県内への普及を図るとともに、1人1台タブレット端末の持ち帰りによる授業と家庭学習のサイクル化の推進を図ります。

<具体的な事業> No,75 デジタル技術を活用した個別最適学習等の充実

特別支援学校の児童生徒の実態に応じた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、1人1台タブレット端末等のICT機器を児童生徒が日常的に活用できるよう指導・支援の充実に取り組みます。また、特別支援学校間でオンライン会議を開き、教員同士が障害種ごとの専門性を生かした実践研究の知見を共有することにより、児童生徒の多様な教育的ニーズへの対応を図ります。【再掲 P76】

<具体的な事業> No,67 学習指導要領の理念に基づいた教育の実践力向上事業

⑦ 1人1台タブレット端末を活用した授業を実践するため、年次研修において体系的な研修プログラムを実施することで、教員のICT活用指導力を高めます。また、全ての教員を対象に、ICTを授業等で効果的に活用するための研修やオンデマンド動画の提供を行います。さらに、学校経営計画にICT活用の項目を位置付け、各学校での取組を進めるとともに、県内の教員のICT活用状況について調査及び情報共有し、校内研修の企画やICT活用計画の改善につなげます。

＜具体的な事業＞ No.76 教員のICT活用指導力の向上

⑧ 小学校におけるICTを活用した授業やプログラミング教育の推進及び充実を図るために、県内の情報教育の中核的な役割を担うリーダー教員や民間企業の講師を活用した研修を実施します。また、リーダー教員は活動指針に基づき、域内のICTの活用及びプログラミング教育の普及を推進します。さらに、小・中学校の「授業づくり講座」において、デジタル教科書やICTを効果的に活用した授業を公開し、教員同士の学び合いを通してその普及と指導力向上を図ります。

高等学校においては、学習指導要領に基づいた情報教育が実践できるよう、情報科の教員や免許教科外指導担当教員等の指導力向上のための研修を行います。

特別支援学校においては、各校の推進リーダーによる「情報共有会」や校内研修を通してICT活用指導力の向上を図ります。

＜具体的な事業＞ No.76 教員のICT活用指導力の向上

No.79 プログラミング教育における授業力向上【後掲 P83, 84】

No.17 「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト【再掲 P53】

⑨ 文部科学省に教員を派遣し、GIGAスクール構想の推進に関わる実務を経験する機会を通して、広い見識と高い実務能力の育成を図ります。また、国が実施する情報化指導者養成研修に指導主事等を派遣し、ICT教育に関する取組の核となる人材の育成を図ります。

【再掲 P52】

＜具体的な事業＞ No.16 学校の力を高める中核人材育成事業

【対策の指標】

対策Ⅲ-1-(1)の指標	現状	参考値	R5年度末の目標数値
中山間地域の小規模高等学校等における遠隔授業・補習の実施校数	授業 14校 補習 18校 (R4年度)	授業 11校 補習 18校 (R3年度)	授業 16校 補習 19校
教員のICT活用指導力の状況 項目A～Dにおいて、肯定的回答をした公立学校の教員の割合(平均) A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力 B 授業にICTを活用して指導する能力 C 児童生徒のICT活用を指導する能力 D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	82.8% (R3国調査)	全国平均 81.5% (R3国調査)	90%以上
1人1台タブレット端末を活用し、児童生徒が日常的に学習支援プラットフォームでの学習に取り組んでいる割合 (対象:県、34市町村、1学校組合) ※R4年度から、統計値にWebアクセスが含まれるよう手法を改善	78.0% (R5.2月) (R4県調査)	64.0% (R3県調査)	100%

対策 -1-(2) 学校のICT環境の整備

【現状・課題】

- ・ G I G Aスクール構想の前倒しにより、令和3年度末までに全公立学校への整備が完了した1人1台タブレット端末の効果的な活用を促進するため、デジタル教育を支えるサポート体制の強化が必要です。
- ・ I C Tを活用して教職員の業務の効率化を図るため、平成28年から統合型校務支援システムの導入を進めてきましたが、さらなる活用促進や機能充実が必要です。

【対策のポイント】

- ・ これからの時代の学びや業務の効率化に欠かせないI C T機器等を児童生徒と教員が「日常的」に活用できる教育環境の実現に向けて、学校におけるI C T環境の整備を迅速かつ計画的に進めます。

【主な取組】

1人1台タブレット端末の効果的な活用を促進するため、ヘルプデスクとなる「G I G Aスクール運営支援センター」を設置し、学校だけでなくタブレット端末を持ち帰った際の家庭からの問い合わせにも対応します。

<具体的な事業> No,77 学校のICT環境整備(G I G Aスクール構想の実現)

1人1台タブレット端末を活用したI C T教育を推進するため、県立学校に「情報通信技術支援員」(I C T支援員)を配置するとともに、教員の取組をサポートする「I C T授業アドバイザー」や「G I G Aスクールサポーター(県立特別支援学校)」を県教育委員会事務局内に配置します。また、市町村立学校におけるI C T支援員の人材確保を支援します。

<具体的な事業> No,77 学校のICT環境整備(G I G Aスクール構想の実現)

児童生徒が一人一人の進度に応じて動画やA I教材等を活用できる次世代型の教育に対応するため、高速大容量の双方向通信を可能とする無線L A Nなど学校における情報通信環境の整備を推進します。

<具体的な事業> No,77 学校のICT環境整備(G I G Aスクール構想の実現)

No,75 デジタル技術を活用した個別最適学習等の充実【再掲 P79】

全ての公立学校において、教職員の成績処理や指導要録作成等の業務の効率化に加え、全校種間や学校間の情報共有と引継ぎの徹底、児童生徒の学習指導や生徒指導を効果的に行うために、県内統一の統合型校務支援システムの活用を推進します。

<具体的な事業> No,78 統合型校務支援システムの活用促進

市町村単位・学校単位・学年単位等で段階的に回答を集計・分析できるアンケートシステムを活用し、県や市町村が実施する調査業務の効率化を図ります。

<具体的な事業> No,77 学校のICT環境整備(G I G Aスクール構想の実現)

児童生徒にデジタル社会における情報の適正かつ安全な利用やICT機器の使用と健康との関わりへの知識を確実に身につけさせるため、県教育委員会が作成した「情報モラル教育実践ハンドブック」等を活用して、保育活動や教育課程に位置付けた情報モラル教育をさらに充実します。

- < 具体的な事業 > No,98 基本的生活習慣向上事業【後掲 P97】
- No,46 健康教育充実事業【再掲 P64】
- No,30 人権教育推進事業【再掲 P58】

【対策の指標】

対策 -1-(2)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
県立学校における GIGA スクールネットワークの整備率(移転・統合校を除く) GIGA スクールネットワークの水準(10Gbps 以上で接続可能な LAN ケーブル等)	100% (R2 整備完了)	100% (R2 県調査)	100%
小・中学校における1人1台タブレット端末の整備率	100% (R3 整備完了)	82.0% (R2 県調査)	100% (R3 年度中)
高等学校(特別支援学校高等部)における1人1台タブレット端末の整備率	100% (R3 整備完了)	-	100% (R3 年度中)
統合型校務支援システムを日常的に活用している教員の割合 ・システムへのアクセス権限を持つ教員のログイン率	市町村 管理職・学校事務: 82.7% 教員: 72.6% 県立 管理職・学校事務: 80.0% 教員: 83.6% (R4.4~R5.2月) (R4 県調査)	市町村 管理職・学校事務: 82.6% 教員: 63.3% 県立 管理職・学校事務: 81.2% 教員: 85.8% (R3.4~R4.2月) (R3 県調査)	管理職・学 事務: 85%以 上 教員: 80% 以上



1人1台タブレット端末の持ち帰りによる家庭学習

基本方針 -2 創造性を育む教育の充実

超スマート社会（Society5.0）の到来を見据え、全ての児童生徒が、新たな時代の基盤となるデジタル技術を理解し情報活用力や論理的な思考力を身につけることができるよう、プログラミング教育や理数系科目等の教育内容を充実させます。

また、A I等の高度なデジタル技術を活用し、社会においてさまざまな課題の解決や新たな価値の創造などに力を発揮できる人材の育成に向けて、高等学校と大学との連携や教員のICT活用力の向上を図る取組を推進します。

対策 -2-(1) プログラミング教育の推進

【現状・課題】

- ・ 小学校におけるプログラミング教育（令和2年度から必修）の具体的な指導については、授業の実践事例が少ないことなどから、各学校における取組状況や教材の準備に差がみられます。
- ・ 中学校における技術・家庭科（技術分野）の内容「D情報の技術」の指導については、学習指導要領の趣旨及び指導内容の理解が十分ではない面があり、各学校における取組状況に差がみられます。
- ・ 高等学校における共通必修科目「情報」の新設（令和4年度から必修化）に伴い、全ての生徒がプログラミング等の基礎について学習するにあたり、情報科担当教員の確保と指導力向上が一層重要となっています。

【対策のポイント】

- ・ 情報教育推進リーダーを活用した研修等を通して、小学校におけるプログラミング教育の質の向上を図ります。
- ・ 研修等を通して教員の指導力を向上させ、高等学校におけるプログラミング教育の充実を図ります。

【主な取組】

小学校におけるICTを活用した授業やプログラミング教育の推進及び充実を図るために、県内の情報教育の中核的な役割を担うリーダー教員や民間企業の講師を活用した研修を実施します。また、リーダー教員は活動指針に基づき、域内のICTの活用及びプログラミング教育の普及を推進します。

<具体的な事業> No.79 プログラミング教育における授業力向上

中学校技術・家庭科（技術分野）における年次研修の受講者や免許外教員を対象に、学習指導要領の趣旨を踏まえたプログラミングに関する指導ができるよう研修を実施し、技術分野担当教員の指導力向上を図ります。

<具体的な事業> No.79 プログラミング教育における授業力向上

高等学校において、全ての生徒がプログラミング言語やネットワーク、情報セキュリティ、データベースの基礎等を習得できるよう、情報科担当教員の指導力を高めるため、教員のスキルに応じた研修を実施します。あわせて、専門性を持った人材を計画的に確保します。

< 具体的な事業 > No,79 プログラミング教育における授業力向上

No,11 教員の人材確保に向けた取組の推進【再掲 P51】

【対策の指標】

対策 -2-(1)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
「高知県 ICT 活用ハンドブック」に掲げた発達段階の目標を踏まえ、プログラミング教育を実践した学校の割合	100% (R4 県調査)	100% (R3 県調査)	100%
プログラミング教育について、実際の体験や研究授業を伴った校内研修を実施した学校の割合(小学校)	85.7% (R4 県調査)	61.8% (R3 県調査)	80%以上

対策 -2-(2) AI 人材育成のための教育の推進

【現状・課題】

- ・超スマート社会（Society 5.0）の支え手として、AI等のデジタル技術を活用し社会におけるさまざまな課題の解決や新たな価値の創造に活躍できる人材の育成が求められています。

【対策のポイント】

- ・デジタル社会で活躍できる人材の育成に向けて、大学等と連携して高度で専門的な学習内容の研究に取り組むとともに、新しい社会に対応し得る情報活用力や課題解決力を生徒に身につけさせるための学習の充実を図ります。

【主な取組】

高度なデジタル技術を活用し、AIやデータサイエンス分野で活躍できる人材の育成に向け、モデルとなる高等学校と大学とが連携し、デジタル分野の専門的な知識や理論、技術等を系統的に学習できる環境を整備します。

< 具体的な事業 > No,80 高大連携によるデジタル社会に対応した教育の充実

1人1台タブレット端末を活用した授業を実践するため、年次研修において体系的な研修プログラムを実施することで、教員のICT活用指導力を高めます。また、全ての教員を対象に、ICTを授業等で効果的に活用するための研修やオンデマンド動画の提供を行います。

【再掲 P80】

< 具体的な事業 > No,76 教員のICT活用指導力の向上

文部科学省に教員を派遣し、G I G Aスクール構想の推進に関わる実務を経験する機会を通して、広い見識と高い実務能力の育成を図ります。また、国が実施する情報化指導者養成研修に指導主事等を派遣し、I C T教育に関する取組の核となる人材の育成を図ります。

【再掲 P52】

< 具体的な事業 > No.16 学校の力を高める中核人材育成事業

【対策の指標】

対策 -2-(2)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
高大連携によるデジタル社会に対応した教育システムの構築	教育プログラムの実施 (R4 年度)	教育プログラム完成 (R3 年度)	全校で教育プログラムを活用:100%
教員の ICT 活用指導力の状況 項目 A ~ D において、肯定的回答をした公立学校の教員の割合 (平均) 【再掲】 A 教材研究・指導の準備・評価・校務などに ICT を活用する能力 B 授業に ICT を活用して指導する能力 C 児童生徒の ICT 活用を指導する能力 D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	82.8% (R3 国調査)	全国平均 81.5% (R3 国調査)	90%以上



1人1台タブレット端末を活用した教員研修

基本方針 -1 中山間地域をはじめとする各地域の教育の振興

多くの地域で児童生徒数の減少や地域コミュニティの希薄化が課題となっている本県において、その地域ならではの教育を展開していくことは、各学校の教育の質の維持・向上はもとより、地域発展の担い手となる人材を育てる観点からも重要です。

このため、中山間地域における次世代の特色ある学校づくりや地域の特色を生かした高等学校の魅力化の取組など、行政・学校・地域の連携・協働により、各地域の教育の振興に向けた取組を推進します。

対策 -1-(1) 中山間地域における多様な教育機会の確保

【現状・課題】

- ・中山間地域では、児童生徒数の減少に伴い、学校統合を余儀なくされている地域が増えてきています。
- ・中山間地域の小規模高等学校等では、生徒数が少ないために教科・科目の選択肢の確保や社会性を育む集団活動などの面で課題がみられます。
- ・中山間地域の小規模高等学校等では総じて教員数が少なく、生徒の多様な進路希望に対応した教育課程の編成や学習指導が困難な場合があります。また、小規模中学校では、特に美術科や技術・家庭科の授業において免許外指導を行わざるを得ない状況です。さらに本県には、複式学級を有する学校が多く、児童生徒数や教員数が少ないため、多様な学びが展開できず、充実した教育活動が困難になる場合もあります。

【対策のポイント】

- ・中山間地域における多様な教育機会の確保に向けて、次世代の特色ある学校づくりや、高等学校の魅力化の取組を推進します。

【主な取組】

中山間地域の教育振興を図るために、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を活用して次世代の特色ある学校づくり（義務教育学校等）を目指す市町村教育委員会を支援することにより、学校と地域との連携・協働による「チーム学校」としての教育活動を充実させ、社会に開かれた教育課程の実現を目指します。

<具体的な事業> No.81 中山間地域における特色ある学校づくり推進事業

中山間地域の高等学校の魅力化に向け、地元市町村等と連携した探究型学習や優秀な指導者の招へいによる部活動、ICTの活用による学習環境等の充実を図ります。また、学校の特色や取組を地域内外に知ってもらうための情報発信に取り組みます。あわせて、市町村が行う中山間地域等の高等学校を核とした地域の教育力の向上及び活性化の取組を支援します。

【後掲 P88】

<具体的な事業> No.83 高等学校の魅力化・情報発信の推進

中山間地域の小規模高等学校等においても生徒が希望する進路を実現するため、教育センターから各校に同時双方向型の授業や進学補習や資格試験のための講座などを配信します。また、学校相互の遠隔授業等を実施するとともに、市町村や経済団体とも連携して地域課題の解決等に関する探究学習を実践するなど、官民協働で教育水準の向上に取り組みます。

【再掲 P78】

< 具体的な事業 > No.72 遠隔教育推進事業

教科の専門性を確保するとともに教員の負担軽減を図るため、小規模中学校の免許外指導担当教員（美術、技術・家庭）を対象に、教育センターから遠隔教育システムを活用し支援に取り組みます。また、研究指定地域に免許外支援拠点校を設置して、地域の学校間で相互支援ができる拠点校型遠隔支援の体制を構築します。さらに、児童の協働的な学びを充実するために、小学校複式学級における遠隔授業に関する研究を進めます。

【再掲 P79】

< 具体的な事業 > No.72 遠隔教育推進事業

【対策の指標】

対策 -1-(1)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
中山間地域の高等学校のうち、令和元年度と比較して入学者数が増加した学校数【後掲】	10 校中 5 校 (R4 年度)	10 校中 2 校 (R3 年度)	10 校中 10 校
中山間地域の小規模高等学校等における遠隔授業・補習の実施校数【再掲】	授業 14 校 補習 18 校 (R4 年度)	授業 11 校 補習 18 校 (R3 年度)	授業 16 校 補習 19 校

対策 -1-(2) 県立高等学校再編振興計画の着実な推進

【現状・課題】

・高等学校教育等の内容の維持・向上に向けて、多様な教育活動ができる適正規模の学校の維持や魅力ある学校づくりが求められます。

【対策のポイント】

・県立高等学校再編振興計画に基づき、高等学校の統合、高台移転や学校の魅力化の取組等を着実に推進します。

【主な取組】

県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」に基づき、安芸中学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高等学校との統合に伴う施設整備及び清水高等学校の高台移転を着実に推進します。

< 具体的な事業 > No.82 施設整備事業（県立高等学校再編振興計画等）

中山間地域の高等学校の魅力化に向け、地元市町村等と連携した探究型学習や優秀な指導者の招へいによる部活動、ICTの活用による学習環境等の充実を図ります。また、学校の特色や取組を地域内外に知ってもらうための情報発信に取り組みます。あわせて、市町村が行う中山間地域等の高等学校を核とした地域の教育力の向上及び活性化の取組を支援します。

<具体的な事業> No.83 高等学校の魅力化・情報発信の推進

No.77 学校のICT環境整備(GIGAスクール構想の実現)【再掲 P81】

県立高等学校再編振興計画「前期実施計画」に基づき、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校との統合完了に向けた取組(令和5年4月統合完了)や、須崎総合高等学校の施設整備等を推進します。

<具体的な事業> No.84 県立高等学校再編振興計画「前期実施計画」に基づく取組

【対策の指標】

対策 -1-(2)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
中山間地域の高等学校のうち、令和元年度と比較して入学者数が増加した学校数	10 校中 5 校 (R4 年度)	10 校中 2 校 (R3 年度)	10 校中 10 校
県立学校における GIGA スクールネットワークの整備率(移転・統合校を除く)【再掲】 GIGA スクールネットワークの水準(10Gbps 以上で接続可能な LAN ケーブル等)	100% (R2 整備完了)	100% (R2 県調査)	100%

対策 -1-(3) 県と市町村教育委員会との連携・協働の推進

【現状・課題】

- ・県内の広域的な課題などについて特に責任を負う県教育委員会と、各市町村内の公立小・中学校等の教育活動や教職員の日常的な取組に対する責任を負う市町村教育委員会が、それぞれの責任と役割を果たしながら、連携・協働して教育水準を向上させていく必要があります。
- ・各市町村で教育課題の状況が異なる中、人的及び財政的な制約により、単独での課題への対応が困難な市町村もみられます。

【対策のポイント】

- ・県教育委員会と市町村教育委員会との間で、施策の方向性を合わせることや施策を協働で実施することなどを通じて、教育の振興に向けた連携・協働の取組を推進します。

【主な取組】

県教育委員会と市町村教育委員会の施策の方向性を合わせ、連携・協働した取組を推進するため、各市町村教育委員会や全ての市町村教育委員会で構成される高知県市町村教育委員会連合会との情報共有・協議の機会を積極的に設けます。

<具体的な事業> No.85 市町村教育委員会との連携・協働

第2期大綱及び第3期計画に掲げる基本目標や基本方針等を踏まえ、各市町村がそれぞれの教育課題の解決に向けて推進する自主的・主体的な取組を、県教育委員会と市町村教育委員会が協議したうえで教育版「地域アクションプラン」として位置付け、人的及び財政的な支援を行います。

< 具体的な事業 > No.86 教育版「地域アクションプラン」推進事業

【対策の指標】

対策 -1-(3)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
教育版「地域アクションプラン」推進事業における各市町村による事業検証結果において目標を達成できた割合	(R4 実績集計中)	100% (R3 県調査)	100%



探究型学習（室戸高等学校）

基本方針 -2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進

将来を担う子どもたちが、志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら生きていく力を身につけていくため、学校・家庭・地域の連携・協働を推進し、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちを支え、見守り、育てる仕組みを構築します。

また、保護者が良好な親子関係や子どもへの関わり方について理解を深められるよう、子どもが育つ基盤である家庭の教育力の向上に向けた支援に取り組みます。

対策 -2-(1) 地域全体で子どもを見守り育てる取組の推進

【現状・課題】

- ・子育てに不安や悩み、負担感や孤立感を抱える保護者が多くいますが、地域の教育力の低下に伴い、支え合いの仕組みが弱くなっています。
- ・子どもたちに関わる課題は多様化・複雑化しており、学校や教員だけの対応には限界があります。

【対策のポイント】

- ・学校と地域の連携・協働による教育活動の充実を図るとともに、民生委員・児童委員の参画などにより、厳しい環境にある子どもたちを地域全体で見守り育てる取組を進めます。
- ・放課後等に子どもたちが安全で安心して過ごせる居場所づくりを進めます。

【主な取組】

学校と地域が連携・協働し、地域ぐるみで子どもたちを見守り育てる地域学校協働本部の取組を推進し、地域住民等の参画による学習活動や部活動、学校周辺環境整備、登下校の安全指導、防災マップづくり等の地域課題解決学習、ふるさとについて学び考える郷土学習等のさまざまな地域学校協働活動を支援します。

<具体的な事業> No.87 地域学校協働活動推進事業

地域による子どもたちの見守り機能を強化するため、全ての地域学校協働本部において、民生委員・児童委員の参画を進めるとともに、厳しい環境にある子どもたちの見守り体制を強化した「高知県版地域学校協働本部」への展開を推進します。

<具体的な事業> No.87 地域学校協働活動推進事業

放課後等の子どもたちの安全・安心な居場所づくりや学びの場の充実を図るため、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の設置を促進するとともに、地域住民の参画を得て、学習習慣の定着や学ぶ意欲の向上につなげるさまざまな活動を支援します。また、就学援助世帯等の子どもたちの利用料減免を行う市町村に対する財政支援を行います。

<具体的な事業> No.88 新・放課後子ども総合プラン推進事業

「地域とともにある学校づくり」に向けて、保護者や地域住民等が学校運営に参画する仕組みであるコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入を促進するため、未導入の市町村や学校への周知・啓発及び導入に向けた支援を積極的に行います。【再掲 P48】

<具体的な事業> No.8 コミュニティ・スクールの推進

地域全体で子どもたちを支え、見守り、育てていくために、地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの一体的な推進に向け、制度理解や機能強化などの促進を図る研修会を実施します。

<具体的な事業> No.88 地域学校協働活動推進事業
No.8 コミュニティ・スクールの推進【再掲 P48】

スポーツ庁及び文化庁が示す「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づく取組として、地域・学校の実情に応じた学校部活動の地域連携・地域移行の在り方等を検討し、それを踏まえた地域のスポーツ環境の整備等のための支援を実施します。【再掲 P65、66】

<具体的な事業> No.48 運動部活動の運営の適正化
No.50 文化部活動指導員・支援員の活用

【対策の指標】

対策 -2-(1)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
地域学校協働本部の設置率(小・中学校)	96.4% (R4 県調査)	全国平均 69.2% (R4 国調査)	100%
放課後児童クラブ又は放課後子ども教室の設置率(小学校)	97.3% (R4 県調査)	97.3% (R3 県調査)	100%
高知県版地域学校協働本部の仕組みを構築した小・中学校の割合【再掲】	91.6% (R4 県調査)	80.1% (R3 県調査)	100%
コミュニティ・スクールを導入している小・中・高等・特別支援学校の割合【再掲】	・小・中:53.8% ・高:51.5% ・特:100% (R4 県調査)	全国導入率 42.9% (R4 国調査)	100%

対策 -2-(2) 家庭教育への支援の充実

【現状・課題】

- ・子育てに不安や悩み、負担感や孤立感を抱える保護者が多くいます。
- ・保護者の不規則な生活習慣による子どもたちへの影響が指摘されています。

【対策のポイント】

- ・保護者が良好な親子関係や子どもへの関わり方について理解を深められるよう、家庭教育力の向上に向けた取組を支援します。

【主な取組】

学校、保護者、行政が協働して、地域の子どもたちを取り巻くさまざまな課題に対応していくため、各地区においてPTAの研修会を開催します。また、保幼小中高の連携した取組が、多くの保護者の参画を得て活性化するよう、PTA活動を支援します。

<具体的な事業> No.89 PTA 活動振興事業

保護者等を対象とした子育て講座をはじめとする市町村が行う家庭教育支援の取組の充実・強化を図ります。また、県教育委員会が作成した学習教材を活用して、保護者や子育て支援関係者が交流しながら「親育ち」について学び合う取組を推進するとともに、この取組を実践できるファシリテーターを養成し、県内全域に派遣します。

<具体的な事業> No.90 家庭教育支援基盤形成事業

保育所・幼稚園等において、親育ち支援担当者を中心に、良好な親子関係や子どもへの関わり方について保護者の理解を深めるための講話やワークショップを開催し、保護者の子育て力の向上を図ります。また、就学時健診等の機会を捉えた講話の実施や、保護者研修の計画的な実施、講話のポイントを解説した動画の配信などにより多くの保護者に支援を届けるための環境を整えるとともに、保育者と保護者の円滑なコミュニケーションや相互理解を深める取組を推進します。【後掲 P96】

<具体的な事業> No.96 親育ち支援啓発事業

子どもとの関わり方や乳幼児期からの望ましい生活習慣の重要性について、保護者の理解を促進するため、保育所・幼稚園等における保護者を対象とした学習会の開催や、基本的な生活習慣の定着に向けた取組を支援します。【後掲 P97】

<具体的な事業> No.98 基本的な生活習慣向上事業

【対策の指標】

対策 -2-(2)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている児童生徒の割合（「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した割合）	・小：69.9% ・中：67.6% (R4 国調査)	全国平均 ・小：71.5% ・中：69.5% (R4 国調査)	全国平均以上
「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童生徒の割合 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童生徒の割合 （「している」、「どちらかといえばしている」と回答した割合）	[寝ている] ・小：82.1% ・中：83.4% [起きている] ・小：90.3% ・中：93.7% (R4 国調査)	全国平均 [寝ている] ・小：81.5% ・中：79.9% [起きている] ・小：90.4% ・中：92.2% (R4 国調査)	[寝ている] ・小：85%以上 ・中：85%以上 かつ全国平均以上 [起きている] ・小：95%以上 ・中：95%以上 かつ全国平均以上

基本方針 -1 就学前の教育・保育の質の向上

保育所・幼稚園等において、園評価の適切な実施などを通じて、組織マネジメント力の強化や保育者の教育力・保育実践力の向上を図り、県内のどこにいても、質の高い教育・保育を受けることができる環境づくりを進めることにより、子どもの「生きる力」の基礎を育みます。

対策 -1-(1) 保育所保育指針・幼稚園教育要領等に沿った指導方法の徹底

【現状・課題】

- ・平成 29 年に国の保育所保育指針・幼稚園教育要領等が改定され、保育所も幼児教育施設に明確に位置付けられたことを踏まえ、各施設共通で教育内容を充実させる必要があります。

【対策のポイント】

- ・各保育所・幼稚園等における質の高い教育・保育の実現に向けた組織的な取組を推進するため、訪問指導や研修等を通じて、「高知県教育・保育の質向上ガイドライン」、「保育所・幼稚園等における園評価の手引き」の活用促進や園内研修の充実を図ります。
- ・県の保育者育成指標と国が示す「保育士等キャリアアップ研修」を連動させた研修の充実等により、管理職を含む保育者のキャリアステージに応じた資質・指導力の向上を図ります。

【主な取組】

保育所保育指針・幼稚園教育要領等を踏まえて、保育者に求められる資質や保育所・幼稚園等で実践すべき具体的な指導方法、保護者支援・地域の子育ての在り方等を示した「高知県教育・保育の質向上ガイドライン」について、園内研修支援や教育センターでの基本研修等の場において、活用方法の周知・徹底を図ります。また、幼保支援アドバイザーや指導主事の直接訪問等により、ガイドラインを全ての園において活用し、保育実践に生かされるよう取り組みます。

<具体的な事業> No,91 園内研修支援事業

管理職が明示する園の経営方針や教育・保育目標を全職員が共有したうえで、保育所保育指針等に基づいた教育・保育がチームとして実践されるとともに、よりよい実践につなげる改善のサイクルを構築できるよう、「保育所・幼稚園等における園評価の手引き」を活用した研修の実施や、幼保支援アドバイザーや指導主事による訪問指導等を充実させます。

<具体的な事業> No,92 園評価支援事業

保育者の職責に応じた専門性や実践力の向上のため、教育センターを中心に、基本研修やキャリアアップ研修を実施します。

<具体的な事業> No,93 保育者基本研修

返還免除制度のある保育士修学資金等を貸し付け、保育士資格取得を目指す学生等を支援することにより、保育士の確保に努めます。

<具体的な事業> No,94 保育士等人材確保事業

保育所・幼稚園等における特別な支援を必要とする子どもへの対応力の向上を図るため、保育者を対象とした研修や個別の指導計画の作成を推進します。【再掲 P74】

<具体的な事業> No,62 特別な支援を要する子どもへの対応力の向上

【対策の指標】

対策 -1-(1)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
ガイドライン等を活用し、教育・保育の質の向上に向け、継続的に取り組んでいる園の割合	80.0% (R4 県調査)	73.7% (R3 県調査)	100%
教育センターが実施するステージ研修の受講園の割合	・新規採用保育者研修: 41.8% ・主任・教頭研修: 82.1% ・所長・園長研修: 81.4% (R4 県調査)	・新規採用保育者研修: 47.0% ・主任・教頭研修: 75.8% ・所長・園長研修: 75.1% (R3 県調査)	・新規採用保育者研修: 80%以上 ・主任・教頭等研修: 80%以上 ・所長・園長研修: 80%以上

対策 -1-(2) 保幼小の円滑な連携・接続の推進

【現状・課題】

- ・県内では、多くの保育所・幼稚園等と小学校とで連絡会や交流活動が行われていますが、互いの教育内容を理解し合い、それぞれの指導に生かす「学びをつなぐ」取組が浸透しているとは言えない状況です。
- ・幼児期の教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど、子どもの経験や育ちをつなぐ組織的・計画的な保幼小連携・接続の取組を充実させる必要があります。

【対策のポイント】

- ・市町村、保育所・幼稚園等、小学校が保幼小の円滑な接続に組織的に取り組むことができるよう、各地域における「接続期のカリキュラム」づくりや、その実践・改善の取組を支援します。
- ・不登校や学力などの課題を未然に防止するため、就学前教育を充実させるとともに、保幼小がしっかり連携し、子どもたちの成長を共に支えていく取組を推進します。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿:「幼稚園教育要領」等では、(1)健康な心と体、(2)自立心、(3)協同性、(4)道徳性・規範意識の芽生え、(5)社会生活との関わり、(6)思考力の芽生え、(7)自然との関わり・生命尊重、(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、(9)言葉による伝え合い、(10)豊かな感性と表現 の10の姿の視点を示している。

【主な取組】

「高知県保幼小接続期実践プラン」に基づき各地域で行われる保幼小の連絡会・交流活動を支援するとともに、文部科学省の「幼保小の架け橋プログラム」を活用し、市町村と連携して「接続期のカリキュラム」のモデルを構築し、県内全域への普及に取り組みます。

< 具体的な事業 > No.95 保幼小連携・接続推進支援事業・幼児教育の周知啓発

地域全体の子どもたちの自尊感情や自己有用感を育むとともに、人権感覚や社会性、規範意識を醸成するため、モデル地域の教育委員会に「統括推進リーダー」を配置し、保幼小中の連携・接続を強化した取組や、学校と福祉部署との連携による取組などを総合的に推進します。【再掲 P58】

< 具体的な事業 > No.31 保幼小中連携モデル地域実践研究事業

特別な支援を必要とする子どもや厳しい環境にある子どもへの保育等の質を高めるため、小学校との円滑な接続や関係機関と連携した支援を行うことができるよう、「親育ち・特別支援保育コーディネーター」の配置を推進します。【再掲 P69】

< 具体的な事業 > No.53 親育ち・特別支援保育コーディネーターの配置

厳しい環境にある子どもが円滑に小学校に入学できるよう、主に5歳児とその保護者に対して、生活習慣や生活環境の改善に向けた助言や指導等を保育者とスクールソーシャルワーカーが連携して行う取組を進めます。【再掲 P69】

< 具体的な事業 > No.54 スクールソーシャルワーカー活用事業 < 就学前 >

【対策の指標】

対策 -1-(2)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
保幼小の連絡会、子どもの交流活動の実施率(それぞれ年3回以上実施)	[連絡会] ・保・幼等:56.8% ・小:58.2% [交流活動] ・保・幼等:33.1% ・小:44.4% (R4 県調査)	[連絡会] ・保・幼等:59.5% ・小:66.1% [交流活動] ・保・幼等:40.9% ・小:58.7% (R3 県調査)	[連絡会] ・保・幼等:100% ・小:100% [交流活動] ・保・幼等:100% ・小:100%

基本方針 -2 親育ち支援の充実

乳幼児期におけるよりよい親子関係の構築を図るため、保育所・幼稚園等において、親の子育て力を高めるための「親育ち支援」が日常的・継続的に行われるよう、園全体で親育ち支援に取り組む体制づくりを進めます。また、子どもとの関わり方や乳幼児期からの望ましい生活習慣の重要性についての保護者の理解を促進するため、保護者を対象とした学習会等の開催や基本的な生活習慣の定着に向けた取組を支援します。

対策 -2-(1) 保育者の親育ち支援力の強化

【現状・課題】

- ・保育所・幼稚園等において、親育ち支援の必要性について保育者の理解は進んでいますが、日常的・継続的な実践までには至っていない状況にあります。

【対策のポイント】

- ・保育所・幼稚園等において、日常的・継続的な親育ち支援が行われるよう、市町村の課題に応じて親育ち支援を推進する中核となる保育者（親育ち支援地域リーダー）や、園内の親育ち支援を推進する担当者（親育ち支援担当者）を中心に組織的な取組を促進し、保育者の親育ち支援力の向上を図ります。

【主な取組】

保育者が、保護者への関わり方や子育てに関する情報提供の仕方などについて理解を深め、組織的・計画的に支援を行うことができるよう、市町村単位等による保育者の親育ち支援力向上のための研修を充実させます。

<具体的な事業> No,96 親育ち支援啓発事業

「親育ち支援地域リーダー」の資質の向上を図るとともに、地域の課題に応じた研修を実施するなど、親育ち支援について各地域で学べる仕組みづくりを推進します。また、「親育ち支援地域リーダー」の支援のもと、全ての保育所・幼稚園等において親育ち支援担当者による園内の保育者研修や保護者向け研修等の計画的な実施を促進します。

<具体的な事業> No,97 親育ち支援保育者スキルアップ事業

【対策の指標】

対策 -2-(1)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
親育ち支援に係る園内研修計画作成率	69.8% (R4 県調査)	56.1% (R3 県調査)	100%

対策 -2-(2) 保護者の子育て力向上のための支援の充実

【現状・課題】

- ・核家族化や厳しい経済状況等を背景に、子どもと十分に向き合うことが難しい保護者や、子育てに不安や悩みを抱えている保護者が多くいます。
- ・保護者の生活習慣の乱れが子どもの基本的な生活習慣の未定着につながっているケースが多くみられます。

【対策のポイント】

- ・良好な親子関係や子どもへの関わり方について保護者の理解を深めることができるよう、保護者を対象とした研修を充実させます。
- ・乳幼児期からの基本的な生活習慣の定着を図るための取組を推進します。

【主な取組】

保育所・幼稚園等において、親育ち支援担当者を中心に、良好な親子関係や子どもへの関わり方について保護者の理解を深めるための講話やワークショップを開催し、保護者の子育て力の向上を図ります。また、就学時健診等の機会を捉えた講話の実施や、保護者研修の計画的な実施、講話のポイントを解説した動画の配信などにより多くの保護者に支援を届けるための環境を整えるとともに、保育者と保護者の円滑なコミュニケーションや相互理解を深める取組を推進します。【再掲 P96】

<具体的な事業> No,96 親育ち支援啓発事業

子どもとの関わり方や乳幼児期からの望ましい生活習慣の重要性について、保護者の理解を促進するため、保育所・幼稚園等が行う保護者を対象とした学習会の開催や、基本的な生活習慣の定着に向けた取組を支援します。

<具体的な事業> No,98 基本的な生活習慣向上事業

【対策の指標】

対策 -2-(2)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
夜 10 時までに寝る幼児の割合 (3 歳児)	93.7% (R4 県調査)	95.5% (R3 県調査)	95%以上

基本方針 -1 生涯にわたって学び地域社会に生かす環境づくり

県民の誰もが生涯にわたって学ぶことができ、その学びの成果がさまざまな場面で発揮できることは、地域や社会に好影響をもたらします。

このため、生涯学習・社会教育の取組を「学ぶ」「生かす」「ひろがる」「支える」それぞれの視点から強化し、生涯にわたって学び地域社会に生かす環境づくりを進めます。

対策 -1-(1) 知の循環型社会を目指した生涯学習・社会教育の推進

【現状・課題】

- ・社会教育を担う団体や人材の基盤が弱ってきています。
- ・県内では、県や市町村のほか民間や大学も含め、多様な講座や教室が開催されていますが、こうした学びの場の情報提供が十分ではありません。
- ・地域の課題解決に生かせる学びや、さまざまな理由で適時に学ぶことができなかった方の学び直しなど、県民の多様な学びのニーズに応える必要があります。

【対策のポイント】

- ・生涯にわたって学び、その成果を地域社会に生かすことができる「知の循環型社会」を目指して、多様な学びの機会の提供、学びを地域に還元できる仕組みの充実、学びを共有できる場の充実、知の循環を支える基盤の充実といったそれぞれの取組を進めます。

【主な取組】

社会教育関係者の研修を充実させるとともに、社会教育主事の養成を推進し、地域の学びを支える人材の育成を図ります。また、社会教育関係団体の活動やネットワークづくりを支援します。

<具体的な事業> No,99 社会教育振興事業

子どもの生きる力を育成するために、小学校や青少年教育団体等が、青少年教育施設や地域の施設を活用して行う森林環境学習や自然体験等を含む宿泊体験活動を支援します。また、こうした機会の充実に向けて、森林環境教育や自然体験学習を推進できる人材の育成に取り組みます。

<具体的な事業> No,100 学びを支える自然体験活動の推進

青少年の健全な育成に向けて、県立青少年教育施設の機能を生かし、子どもも大人も参加できる多様で魅力的な体験プログラムを提供します。

<具体的な事業> No,101 青少年教育施設振興事業

高知市が設置する「高知みらい科学館」の運営支援を通じて、県内全域を対象とした理科教育・科学文化の振興を進めます。

<具体的な事業> No,102 高知みらい科学館運営事業

県民が本県教育の現状について知り、考えるきっかけをつくるため、市町村や関係機関等と連携して高知県教育の日「志・とさ学びの日」を広く周知・啓発する取組を推進します。

<具体的な事業> No,103 志・とさ学びの日推進事業

地域の方々の経験や学びを社会に還元する場として、また、子どもたちの学びを大人の新たな学びにつなげる場として、放課後子ども教室の取組や地域学校協働本部における地域学校協働活動を推進します。また、県民一人一人が自発的意思に基づき必要性に応じて学び、その成果が地域社会で発揮できるよう、市町村・民間・大学等と連携し、県内のあらゆる学びの場や学びの成果を生かせる場に関する情報提供・相談機能を強化します。

<具体的な事業> No,104 生涯学習活性化推進事業

【対策の指標】

対策 -1-(1)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
社会教育主事を配置している市町村数	14 市町村 (R4 年度)	18 市町村 (R3 年度)	26 市町村
保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している学校の割合(よく参加していると回答した割合)【再掲】	・小:48.9% ・中:17.6% (R4 国調査)	全国平均 ・小:51.5% ・中:24.3% (R4 国調査)	・小:70%以上 ・中:50%以上 かつ全国平均以上
県立青少年教育施設の利用者数(青少年)	126,630 人 (R4.4 ~ R5.2 月) (R4 県調査)	110,389 人 (R3 県調査)	172,000 人以上
生涯学習ポータルサイトへのアクセス件数	72,547 件 (R4.4 ~ R5.2 月) (R4 県調査)	70,633 件 (R3 県調査)	70,000 件/年



高知みらい科学館イベント サイエンスショー

高知県教育の日「志・とさ学びの日」:平成 22 年 11 月 22 日の全国生涯学習フォーラム高知大会閉会式において、すべての県民が、教育について理解と関心を深め、高い志を持つ子どもたちを育み、ともに学びあう意識を高めるとともに、一人ひとりが学ぶ目的や喜びを自覚し、生涯にわたって学び続ける風土をつくりあげていくため、11 月 1 日を「志・とさ学びの日」とすることが宣言された。

対策 -1-(2)

オーテピア高知図書館を核とした県民の読書環境・情報環境の充実

【現状・課題】

- ・オーテピア高知図書館は地域を支える情報拠点として、ポスト・コロナ、デジタル社会などに対応し、県民の暮らしや仕事の中で生じるさまざまな課題の解決や学びに役立つことができるよう、新鮮で幅広い資料の充実が求められています。
- ・県民がそれぞれの地域で読書をし、役立つ情報が得られるよう、県内全域の読書・情報環境の一層の充実が必要です。

【対策のポイント】

- ・オーテピア高知図書館において、利用者の多様なニーズに応えられるよう、紙媒体と電子媒体の双方を提供するハイブリッド型図書館として非来館型サービスの充実を図るとともに、地域の課題解決支援サービスの充実に取り組みます。
- ・県内全域の読書・情報環境の充実に向け、高知県図書館振興計画（平成30年7月策定）や第2期オーテピア高知図書館サービス計画（令和3年10月策定）に基づく取組を進めます。
- ・子どもたちが小さい頃から本に親しみ、読書が習慣となるよう、第四次高知県子ども読書活動推進計画（令和4年7月策定）に基づく取組を進めます。

【主な取組】

県民の知的ニーズに応え、課題解決ができる図書館の実現に向けて、新鮮で幅広い資料・情報の収集・提供や、図書館活用講座の開催などによる情報リテラシーの向上支援に取り組みます。あわせて、県民にこうしたサービスを広く周知するため、関係団体と連携した普及・啓発や効果的な広報活動を行います。

<具体的な事業> No,105 図書館活動事業

非来館型サービスの充実を図るため、オンラインによるレファレンスの受付、デジタルコンテンツのWebサイトへの公開などを進めます。また、コンテンツを横断した本文の検索や、スマートフォン向けのアプリによる利用ができる閲覧型電子書籍サービスの導入とあわせて電子図書館の充実を図ります。

<具体的な事業> No,105 図書館活動事業

司書の専門性を高めるため、専門講座などの県内外研修への派遣や館内研修の充実を図ります。

<具体的な事業> No,105 図書館活動事業

県立学校等の要望するテーマに応じた資料の一括貸出や、児童生徒1人1台タブレット端末での電子図書館及び閲覧型電子書籍サービスの利用促進を図ります。

<具体的な事業> No,105 図書館活動事業

情報リテラシー：必要な情報の探し方や得た情報を客観的に判断し、自己の目的に適合するように活用する能力

レファレンス：利用者の問合せに図書館資料（図書や雑誌、新聞、データベースなど）を案内したり、図書館資料に基づいて回答したりすること

デジタルコンテンツ：デジタル化された情報で構成されたものの総称

県民に身近な市町村立図書館等のサービスの充実に向けて、協力貸出用の資料の充実や職員を対象とした動画等を活用した研修機会の提供などにより、市町村立図書館等の運営と人材育成を支援します。

<具体的な事業> No,105 図書館活動事業

県内全域の図書館等の振興に向け、市町村立図書館の活動を支援するとともに、子どもが本や読書に興味を持った時に県内のどこに住んでいても読みたい本にアクセスできる環境整備を図り、乳幼児から本に触れる機会の提供や、読書の魅力を発信する読書ボランティアの養成などに取り組みます。

<具体的な事業> No,106 読書活動推進事業

【対策の指標】

対策 -1-(2)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
県民一人当たりの図書貸出冊数	4.9 冊 (R3 県調査)	全国平均 4.3 冊 (R2 国調査)	4.9 冊以上
電子図書館の閲覧回数	11,262 回 (R4.4 ~ R5.2 月) (R4 県調査)	7,751 回 (R3 県調査)	30,000 回
オーテピア高知図書館におけるレファレンス件数	19,046 件 (R4.4 ~ R5.2 月) (R4 県調査)	27,627 件 (R3 県調査)	30,000 件以上
県立学校、市町村立図書館等への協力貸出冊数	38,157 冊 (R4.4 ~ R5.2 月) (R4 県調査)	38,959 冊 (R3 県調査)	35,000 冊以上
児童・生徒が家や図書館で普段(月～金)全く読書をしていない割合	・小:24.0% ・中:36.3% (R4 国調査)	全国平均 ・小:26.3% ・中:39.0% (R4 国調査)	全国平均を3ポイント以上下回る

対策 -1-(3) 多様なニーズに対応した教育機会の提供

【現状・課題】

- ・進路未定のまま中学校を卒業した方や高等学校を中途退学した方、さまざまな理由により義務教育を受けられなかった方、外国籍の方など、必要な時期に十分に学ぶことができなかった方がいます。
- ・進路未定の状態で高等学校を中途退学したことなどにより、社会的自立に困難を抱える若者等がいます。

【対策のポイント】

- ・社会的自立に困難を抱える若者等に対する修学・就労に向けたきめ細かな支援や、公立中学校夜間学級の円滑な運営及び充実により、県民の多様なニーズに応じた学びの場を提供します。

【主な取組】

さまざまな背景を持つ方の就学機会（学びの場）を確保・充実するため、個々の生徒の学習状況に応じた教材の選定や指導方法の工夫を行い、学ぶ喜びを実感できる教育環境を整備するなど、公立中学校夜間学級（夜間中学）の教育活動の充実を図ります。あわせて、中学校を卒業していない方だけでなく、外国籍の方など、夜間中学に関する情報をより多くの人に周知します。

<具体的な事業> No,107 中学校夜間学級教育活動充実推進事業

中学校卒業時や高等学校中途退学時の進路未定者など進学や就職に支援を必要とする若者、就職氷河期世代（概ね 40 歳代）のうち長期間無業であった方やひきこもり傾向にある方などに対し、「若者サポートステーション」を核にして修学や就労に向けた支援を行い、社会的自立を促進します。

<具体的な事業> No,108 若者の学びなおしと自立支援事業

社会人で学び直しを希望する人など、多様な学びのニーズに対応するため、聴講生制度の拡充など、定時制高等学校における学びの機会の確保と拡充を図ります。

<具体的な事業> No,109 定時制教育の充実

【対策の指標】

対策 -1-(3)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
若者サポートステーション利用者の進路決定率(単年度)	34.2% (R4.4～R5.2月) (R4 県調査)	39.5% (R3 県調査)	40%以上
聴講生の受入(県立定時制高校 12 校中)	受入校:5校 実人数:46名 (R4 年度)	受入校:5校 実人数:51名 (R3 年度)	前年度実人数以上



オーテピア高知図書館 館内ツアー

若者サポートステーション：就職や就学に不安を抱えた方に寄り添いながら、就労・就学支援を行っていくところ

基本方針 - 2 児童生徒等の安全・安心の確保

さまざまな自然災害や事故、犯罪等から子どもたちの命を守り抜くため、学校等における防災を中心とした安全教育と安全管理の充実を図るとともに、南海トラフ地震等に備えた施設の整備を進めます。

また、新型コロナウイルス感染拡大による影響など先行きが不透明な「予測困難な時代」においても、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、安全・安心な環境づくりや体制づくりを強化します。

対策 -2-(1) 子どもたちの安全・安心の確保のための取組強化

【現状・課題】

- ・南海トラフ地震が発生した際には、本県に甚大な被害がもたらされることが懸念されています。また、台風や大雨等による気象災害が激甚化しており、本県でも被害が懸念されています。
- ・全国で子どもの尊い命が奪われる交通事故・事件等が発生しており、本県においても毎年、子どもが巻き込まれる交通事故や不審者事案が発生しています。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまでの生活様式が変わり、心身の健康に影響を及ぼしている子どもがいます。
- ・子どもたちが安心して過ごすことのできる教育・保育環境の充実や、人権が尊重された学校・学級づくりに取り組んでいくことが求められています。

【対策のポイント】

- ・子どもたちが安心して学校等での生活を送れるよう、子どもたちにとって安全・安心な環境づくりや教育活動を充実します。
- ・子どもたちが自ら考えて自らの命を守り、自他の生命を尊重しながら、社会の安全に貢献することができるよう、学校での安全教育を推進します。
- ・学校における安全管理として、安全で安心な学校環境の整備や、子どもたちの安全を確保するための組織的な取組を充実させます。

【主な取組】

子どもたちがいかなる状況下でも自らの命を守り抜くとともに、安全で安心な生活や社会を実現するために主体的に行動できる力を身につけられるよう「高知県安全教育プログラム」に基づく防災を中心とした安全教育を一層推進します。

<具体的な事業> No,110 防災教育推進事業

登下校時の安全確保に向けて、子どもたち自身に、危険予測・回避能力を身につけさせる安全教育を実施するとともに、地域や保護者、関係機関等と連携した学校安全の取組の強化・充実を図ります。

<具体的な事業> No,111 登下校の安全対策の促進

子どもたちの発達の段階に応じた交通安全教育を実施するとともに、「改正道路交通法」や「高知県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」(平成30年10月19日条例第52号)に基づき、子どもたちの自転車ヘルメット着用を促進するなど、登下校時における自転車の安全で適正な利用の促進を図ります。

<具体的な事業> No,112 自転車ヘルメット着用推進事業

子どもたちが主体的に健康的な生活を送るための理解を深め、正しい態度を養うために、健康教育副読本や外部講師を効果的に活用し、家庭や地域と連携して性教育、がん教育、食育などの健康教育の充実を図ります。また、新型コロナウイルス感染症対策に係る教訓を踏まえ、関係機関と連携を図りながら、子どもたちの心身の健康を守っていけるような感染症対策を充実させるとともに、感染症の不安から生じる差別・偏見等を防ぐための学習を推進します。【再掲 P64、72、58】

<具体的な事業> No,46 健康教育充実事業
No,59 食育推進支援事業
No,30 人権教育推進事業

放課後等の子どもたちの安全・安心な居場所づくりや学びの場の充実を図るため、放課後児童クラブや放課後子ども教室の設置を促進するとともに、地域住民の参画を得て、学習習慣の定着や学ぶ意欲の向上につなげるさまざまな活動を支援します。【再掲 P90】

<具体的な事業> No,88 新・放課後子ども総合プラン推進事業

一人一人の人権が尊重される学校・学級づくりに向けて、「高知県人権教育推進プラン(令和2年改定版)」に基づき、教育活動全体を通じた人権教育の充実を図ります。また、「情報モラル教育実践ハンドブック」等に基づく情報モラル教育の取組を強化します。

【再掲 P58、97、64】

<具体的な事業> No,30 人権教育推進事業
No,98 基本的生活習慣向上事業
No,46 健康教育充実事業

成年年齢引下げに伴う消費者被害などを防ぐために、関係機関と連携し消費者教育等の充実を図ります。【再掲 P59】

<具体的な事業> No,34 生徒の社会的自立・社会参画のための支援の充実
(地域協働学習、主権者教育・消費者教育、起業家教育等)

就学前施設に通う子どもたちの安全確保を徹底するため、保育所・幼稚園等の職員等を対象とした研修会や、送迎用バスへの安全装置の導入支援などに取り組みます。【後掲 P105】

<具体的な事業> No,114 保育所・幼稚園等の施設整備・安全対策の促進

【対策の指標】

対策 -2-(1)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
各学校が作成している安全教育全体計画の学年別重点目標【災害安全】(児童生徒が自らの命を守るために必要な資質・能力の育成)を達成できた学校の割合	・小:100% ・中:100% ・高:100% ・特:100% (R4 県調査)	・小:100% ・中:100% ・高:100% ・特:100% (R3 県調査)	・小:100% ・中:100% ・高:100% ・特:100%
スクールガード(学校安全ボランティア)や地域住民等の活動の状況を把握し、見守り活動等の登下校の安全対策について家庭や地域、関係機関等との連携・協働体制ができている小学校の割合	100% (R4 県調査)	100% (R3 県調査)	100%

対策 -2-(2) 南海トラフ地震等の災害に備えた施設整備の推進

【現状・課題】

- ・南海トラフ地震の発生による大きな被害が懸念され、また、台風や大雨、土砂災害等の気象災害も頻発する中、施設への被害を最小限に止め、子どもたちの安全・安心を確保する必要があります。
- ・地域の避難所に指定されている学校施設等について、発災後も避難所として機能を維持できるように、非構造部材の耐震対策等が必要となっています。

【対策のポイント】

- ・学校施設等の耐震化や防災機能の強化を推進します。

【主な取組】

耐震対策や防災機能の強化により、災害に強い学校施設等の整備を推進します。県立学校では、発災時に地域の避難所となる施設の天井材の落下防止や窓ガラス飛散防止といった非構造部材の耐震化等に取り組むとともに備蓄物資の整備を進めます。

<具体的な事業> No,113 学校施設の安全対策の促進

南海トラフ地震で発生する災害から乳幼児の安全を確保するため、保育所・幼稚園等の施設の耐震化、高台移転及び高層化に伴う施設整備への支援を行います。

<具体的な事業> No,114 保育所・幼稚園等の施設整備・安全対策の促進

安芸中学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高等学校との統合に伴う施設整備及び清水高等学校の高台移転を着実に推進します。【再掲 P87】

<具体的な事業> No,82 施設整備事業(県立高等学校再編振興計画等)

【対策の指標】

対策 -2-(2)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
学校施設等の耐震化率	・保・幼等:99.6% (R4 県調査) ・公立小・中:98.9% ・公立高・特:100% (R4 国調査)	・保・幼等:98.4% (R3 県調査) 全国平均 ・公立小・中:99.7% ・公立高・特:99.5% (R4 国調査)	・保・幼等:100% ・公立小・中:100% ・公立高・特:100%
県立学校体育館の非構造部材等の耐震化率 (対象:40校)	100% (R3 県調査)	90.0% (R2 県調査)	100%

対策 -2-(3) 長寿命化改修など教育施設の計画的な整備の推進

【現状・課題】

- ・築年数が40年を超える学校施設や青少年教育施設が数多くあり、早期の老朽化対策が課題となっています。
- ・従来の方策による整備方針では、次々と建て替え時期を迎え、多額の費用負担が短期間に集中することから、財政負担の平準化を図るために計画的な整備が必要です。

【対策のポイント】

- ・「高知県立学校施設長寿命化計画」(平成29年12月策定)に基づき、県立学校施設の長寿命化改修を実施します。
- ・県立青少年教育施設・設備の計画的な改修・修繕を進めます。

【主な取組】

児童生徒等にとって安全、安心で快適な教育環境を保持するため、「高知県立学校施設長寿命化計画」に基づき、築40年を経過している学校施設の改修等に取り組みます。改修等に当たっては、空調設備などの高効率機器への更新や、太陽光発電設備の設置などにより、施設の省エネルギー化や災害対策等を推進します。

<具体的な事業> No,115 学校施設の長寿命化改修等による整備の推進

青少年教育施設利用者の安全性の確保や満足度の向上のため、利用者の意見を踏まえながら、優先度の高いものから計画的に施設・設備の改修や修繕を進めます。

<具体的な事業> No,116 青少年教育施設の整備

【対策の指標】

対策 -2-(3)の指標	現状	参考値	R5 年度末の目標数値
学校施設の長寿命化改修の実施	・基本設計:7校 ・設計:5棟(3校) ・工事:3棟(1校) (累積数)(R4年度)	・基本設計:2校 ・設計:3棟(1校) ・工事:3棟(1校) (累積数)(R3年度)	・基本設計:13校 ・設計:11棟(7校) ・工事:5棟(3校) (累積数)

横断的取組 1 不登校への総合的な対応

不登校の未然防止を図るため、児童生徒が学校が楽しいと実感できるような魅力ある学校づくりを推進するとともに、初期対応のための組織強化や校内支援会のさらなる充実を図り、校内における支援体制を強化します。

また、不登校児童生徒に対しては、個々の状況に応じた適切な支援が抜かりなく行われるよう、学校と専門機関等との連携・協働体制を構築しながら、重層的な相談支援体制を強化します。

取組 1-(1) 不登校の未然防止と初期対応

【現状・課題】

- ・児童生徒理解に基づいた学級経営、授業づくりを組織的・協働的に進めていく必要があります。また、発達障害等のある子どもをはじめ、支援を要する子どもたち一人一人に必要な支援や学習指導を行うために、教職員の授業実践力・学級経営力の向上が求められています。
- ・教員の不登校に対する認識や、不登校対応の知識及び経験が十分でない場合があります。
- ・学校における初動体制の仕組みや小中連携による不登校未然防止、初期対応の取組など、系統立った支援方法が十分に確立されていないケースがみられます。
- ・不登校の要因は、家庭内の状況に関わる部分が少なくないため、学校と関係機関との連携・協力のネットワークづくりを推進する必要があります。

【取組のポイント】

- ・学校全体で組織的に学習指導と生徒指導の一体化を図り、教員の指導力を向上させることにより、不登校を生じさせない魅力ある学級・学校づくりに取り組みます。
- ・学校における早期の情報共有による支援体制を構築することにより、兆しの見えた初期の段階からチームとして支援を強化します。
- ・個々に応じた指導支援が切れ目なく引き継がれるよう、校内支援体制のさらなる充実・強化を図ります。

【主な取組】 主な取組は、以下全て再掲

未然防止の取組や校内支援会の実施など、不登校に対する組織的な取組を学校経営計画に位置付け、学校全体でPDCAサイクルを回しながら組織的に取り組みます。また、若年教員の研修や「メンター制」、「教科のタテ持ち」等の教員同士が学び合う仕組みにより、教員の指導力を高めていきます。

<具体的な事業> No.2 学校経営を基盤とした組織力の強化

全ての児童生徒が、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように、小・中学校における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習・指導方法の改善、ICTを効果的に活用した授業の推進を図ります。また、高等学校における教科会の充実等により組織的な授業改善の取組がさらに広がるよう教員の意識改革を促進します。

<具体的な事業> No.17 「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト

No.22 学力向上推進事業

市町村や小・中学校が放課後等の補充学習を計画的に実施できるよう、「放課後等学習支援員」の配置に対する支援を行います。また、高等学校等における生徒の学力の状況に応じたきめ細かな学習指導・支援を充実させるため、「学習支援員」を配置し放課後補習や授業支援の充実・強化を図るとともに、義務教育段階の学習内容に立ち返りながら高等学校の内容を学習できる教材や、実社会とのつながりを踏まえた学習ができる教材の活用を促進します。

<具体的な事業> No,9 放課後等における学習支援事業
No,23 学習支援員事業

児童生徒に社会の中で多様な人々と互いに尊重し合う社会性や、他者への思いやり、規範意識などの道徳性を育むため、教育活動全体を通じて道徳教育、人権教育を進めます。

<具体的な事業> No,29 道徳教育協働推進プラン
No,30 人権教育推進事業

小・中学校の指定校において、発達支持的生徒指導に組織的に取り組む実践研究を推進するとともに、生徒指導主事(担当者)の研修会等を通してその成果を県内全域に普及し、各学校での実践につなげます。

<具体的な事業> No,39 高知夢いっぱいプロジェクト推進事業

発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導、困難課題対応的生徒指導が、未然防止、早期発見、早期対応等のそれぞれの場面において組織的に推進されるよう、各小・中・高等学校の生徒指導主事(担当者)の実践力やマネジメント力の向上を図るための研修を実施します。

<具体的な事業> No,41 生徒指導主事会(担当者会)

『高知家』いじめ予防等プログラム」の組織的・計画的な実施により、児童生徒のいじめに対する理解を深め、いじめの防止や解決に資する道徳性を養います。また、ソーシャルスキルトレーニングなど社会で必要なコミュニケーション能力や社会性を育む取組を通して、児童生徒の自尊感情や人間関係を築く力を育みます。

<具体的な事業> No,43 いじめ防止対策等総合推進事業
No,35 ソーシャルスキルアップ事業
No,101 青少年教育施設振興事業
No,100 学びを支える自然体験活動の推進

社会人・職業人として自立するために必要な資質・能力を育むとともに、児童生徒が目的意識をもって学校生活を送ることができるよう、小・中・高等学校を通じたキャリア教育の充実を図ります。

<具体的な事業> No,32 キャリア教育強化プラン
No,33 キャリアアップ事業

各小・中学校の不登校担当者が中心となり、統合型校務支援システムや学習支援プラットフォームの「きもちメーター」等も活用して早期発見・早期対応の組織的な取組を推進し、新規不登校の抑制を図ります。また、不登校児童生徒等について、個別最適な支援が継続して行われるよう小学校から中学校へ支援内容の統一・引き継ぎ内容の充実を図り、校区内連携の強化を推進します。

- <具体的な事業> No,42 個別最適な支援をつなぐ校区内連携事業
- No,78 統合型校務支援システムの活用促進
- No,73 学習支援プラットフォームの活用促進

生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣を子どもたちが身につけることができるよう、体育・保健体育の授業の質を向上させる取組を推進するとともに、家庭や地域と連携して性教育、がん教育、食育等の健康教育の充実を図ります。

- <具体的な事業> No,45 体育授業の質的向上対策
- No,46 健康教育充実事業
- No,59 食育推進支援事業

学校等の相談支援体制の充実・強化を図るため、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの効果的な活用を推進するとともに、就学前の子どもや保護者に対する助言や指導等を保育者と連携して行う取組を支援します。

- <具体的な事業> No,54 スクールソーシャルワーカー活用事業<就学前>
- No,55 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用事業

管理職や関係教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等で組織する校内支援会を定期的開催し、専門的な助言を取り入れた具体的な手立てを策定・共有します。また、PDCAサイクルによる支援策の検討を行うとともに、統合型校務支援システムや支援シート等を活用した手立ての共有により、組織的な対応の充実を図ります。

- <具体的な事業> No,40 校内支援会サポート事業

スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの支援力向上を図るため、より効果的な研修を実施するとともに、心の教育センターをプラットフォームにして、各学校等に配置されているスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーへの支援等を行います。また、校内支援会を運営する教員とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる合同研修会を実施し、相談支援の連携強化を図ります。

- <具体的な事業> No,56 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーのアセスメント力向上研修

不登校の未然防止には、就学前の早い段階から関係機関と連携した支援が重要であるため、保育所・幼稚園等への支援や小学校への円滑な接続への支援等を行うコーディネーターの配置を拡充します。

- <具体的な事業> No,53 親育ち・特別支援保育コーディネーターの配置

発達障害を有するなど特別な支援が必要な幼児や児童生徒に対し、就学前から高等学校卒業に至るまで適切な指導・支援が行われるようユニバーサルデザインの視点に基づく保育・教育を推進するとともに、保育者や教員向けの体系的な研修を実施します。また、外部専門家や地域の人材の力を活用した組織的・協働的な取組を行い、全ての学びの場における特別支援教育の充実を図ります。

- < 具体的な事業 > No,63 小・中学校等における切れ目ない支援体制の構築推進
 No,64 小・中学校の特別支援学級における教育の質の向上に向けた取組強化
 No,66 特別支援教育セミナー
 No,65 高等学校における特別支援教育の推進
 No,62 特別な支援を要する子どもへの対応力の向上

保育所・幼稚園等において、子どもとの関わり方や基本的な生活習慣の定着等、子育てに関する啓発や子育て相談活動の充実を図るとともに、保護者との関わり方や支援の仕方について保育者の理解を深め、親育ち支援力の向上を図ります。また、不登校などの教育課題を未然に防ぐため、保幼小の円滑な連携・接続に向けた取組を強化します。

- < 具体的な事業 > No,96 親育ち支援啓発事業
 No,97 親育ち支援保育者スキルアップ事業
 No,98 基本的な生活習慣向上事業
 No,95 保幼小連携・接続推進支援事業・幼児教育の周知啓発

地域住民による子どもたちの見守り機能を強化した「高知県版地域学校協働本部」の取組や、保護者、地域住民等が学校運営に参画する仕組みであるコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入を促進することにより、地域と連携した特色ある教育活動を実施し、子どもたちが安心して教育が受けられる魅力ある学校づくりを進めます。また、地域住民の参画を得て、学習習慣の定着や学ぶ意欲の向上につなげるさまざまな活動を支援し、放課後等における子どもたちの安全・安心な居場所づくりや学びの場の充実を図ります。

- < 具体的な事業 > No,87 地域学校協働活動推進事業
 No,8 コミュニティ・スクールの推進
 No,88 新・放課後子ども総合プラン推進事業

地域全体の子どもたちの自尊感情や自己有用感を育むとともに、人権感覚や社会性、規範意識を醸成するため、モデル地域の教育委員会に「統括推進リーダー」を配置し、保幼小中の連携・接続を強化した取組や、学校と福祉部署の連携による取組などを総合的に推進します。

- < 具体的な事業 > No,31 保幼小中連携モデル地域実践研究事業

取組 1-(2)	社会的自立に向けた支援の充実
----------	----------------

【現状・課題】

- ・学校において外部の専門人材を効果的に活用し、組織的な支援体制を強化していくことが必要です。
- ・不登校児童生徒やその保護者が気軽に安心して相談できる環境が十分に整っていない状況にあります。
- ・学校、スクールソーシャルワーカー、市町村の福祉部署等とが相互に連携し、不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援体制をさらに強化する必要があります。
- ・ひきこもり傾向にある児童生徒やその保護者等に対して、専門的な支援をするための学校外の体制強化を図る必要があります。
- ・不登校児童生徒の社会的自立に向け、多様な教育機会の確保などの新たな観点を入れた取組を検討する必要があります。

【取組のポイント】

- ・不登校児童生徒やその保護者が相談しやすい環境を整備するとともに、教育、心理、福祉等のそれぞれの専門的な視点を踏まえた組織的な支援体制を強化します。
- ・児童生徒の社会的自立を目指し、本県の実情に応じた一人一人の課題に対する新たな学校・教育課程の在り方についての検討を行います。

【主な取組】

相談支援体制の充実・強化を図るため、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを全ての公立学校に配置し、効果的な活用を推進するとともに、ニーズや課題にあわせた重点配置を進めます。また、課題を抱える児童生徒一人一人の状況に応じた支援の充実を図るため、市町村の教育支援センターにおいてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが積極的に働きかけを行うアウトリーチ型の支援を行います。

<具体的な事業> No,55 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用事業

児童生徒の状況に応じた適切な支援が行われるよう、各学校において専門人材を活用した効果的な校内支援会を実施するとともに、必要に応じて心の教育センターや福祉、医療等の関係機関と連携して児童生徒の支援を行う仕組みづくりを推進します。

<具体的な事業> No,40 校内支援会サポート事業

児童生徒や保護者が利用しやすい相談環境づくりに向けて、心の教育センターの土曜日・日曜日の開所、県東部・西部地域における相談室の開室、メール・電話・SNSなどの相談窓口を継続し、多様な相談ニーズや課題に対応できるよう相談支援体制の充実を図ります。また、心の教育センターのスクールカウンセラー等との連携などを通して、学校や教育支援センターにおける相談支援の質的向上を図ります。

<具体的な事業> No,57 心の教育センター相談支援事業

不登校等児童生徒に対して学校、教育支援センター、心の教育センターによる重層的な支援体制を確立します。特に学校では、不登校等児童生徒が安心して過ごせる居場所の確保及び個に応じた最適な学びを保障するために、「校内サポートルーム」の設置を拡充するとともに、ICTを活用した学習支援の実践研究を推進します。

<具体的な事業> No,58 不登校支援推進プロジェクト事業

不登校等児童生徒の学習機会を確保するため、市町村の教育支援センターを拠点としたICTの活用による自主学習等の取組を支援します。また、放課後や夜間等の多様な学びの場や体験活動の機会の充実を図ります。

<具体的な事業> No,58 不登校支援推進プロジェクト事業

No,101 青少年教育施設振興事業

不登校児童生徒の社会的自立に向けて、不登校特例校の設置についての検討や、教育支援センターの機能強化、フリースクール等の民間団体との連携、1人1台タブレット端末の活用など、多様な教育機会確保のための取組を促進します。

<具体的な事業> No,58 不登校支援推進プロジェクト事業

家庭の経済状況を背景として休みがちになる児童生徒も一定数いることから、経済的な理由で就学が困難な家庭を対象とした経済的支援や教育費の負担軽減を図ります。

<具体的な事業> No,60 高等学校等就学支援金事業、高校生等奨学給付金事業等

中学校卒業時や高等学校中途退学時の進路未定者、ニートやひきこもり傾向にある若者、就職氷河期世代（概ね40歳代）のうち長期間無業であった方やひきこもり傾向にある方などに対し、「若者サポートステーション」を核にして修学や就労に向けた支援を行い、社会的自立を促進します。

<具体的な事業> No,108 若者の学びなおしと自立支援事業

【取組の指標】

横断的取組1の指標	現状	参考値	R5年度末の目標数値
1,000人あたりの新規不登校児童生徒数	・小:7.9人 ・中:28.1人 ・高:9.9人 (R3国調査)	全国平均 ・小:7.2人 ・中:24.5人 ・高:12.8人 (R3国調査)	全国平均以下
90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、学校内外の関係機関等(医療、福祉、教育支援センター、心の教育センター、SC・SSWなど)の相談や支援を受けている児童生徒の割合	・小:95.1% ・中:96.8% (R3国調査)	全国平均 ・小:72.3% ・中:63.1% (R3国調査)	・小:100% ・中:100%
不登校児童生徒(年間30日以上欠席)のうち、学校外の機関に通所して出席扱いとなった日数を除くと欠席日数が30日未満となる児童生徒の割合	(R4実績集計中)	・小:4.6% ・中:2.0% (R3県調査)	前年度の割合以上
不登校児童生徒のうち、学校等の取組によって、同年度中に継続的に登校できるようになった児童生徒の割合	(R4実績集計中)	・小:23.7% ・中:23.7% ・高:34.0% (R3県調査)	・小:50% ・中:50%

横断的取組 2 学校における働き方改革の推進

教員の肉体的、精神的な負担を軽減し、日々の生活の質を向上させるとともに、本来業務である授業改善や個々の児童生徒に応じた生徒指導等の子どもと向き合う時間を確保し、限られた時間の中で最大の教育効果を発揮することができるよう市町村教育委員会や学校等と連携し、学校における働き方改革を加速します。

取組 2-(1) 学校組織マネジメント力の向上と教職員の意識改革

【現状・課題】

- ・ 統合型校務支援システムの導入により勤務時間を管理する環境は整いましたが、システムが十分に活用されておらず勤務時間管理が徹底されていない学校があります。
- ・ 教職員一人一人がこれまでの働き方を見直し、勤務時間を意識して限られた時間の中で計画的・効率的に業務を行おうとする意識を持つことが必要です。
- ・ 若年教員の時間外在校等時間が多い実態があるとともに、病気休暇や早期退職も増加傾向にあるため、特に若年層に対して対策を講じる必要があります。

【取組のポイント】

- ・ 各教育委員会において策定する「学校の教育職員の在校等時間の上限に関する方針」に基づき、管理職のマネジメントの実践により、勤務時間管理の徹底のほか、在校等時間を意識したメリハリのある働き方を推進します。
- ・ 限られた時間を有効に活用し、より効果的で効率的な教育活動を行うことができるよう、管理職や教職員を対象とした研修の実施や好事例の紹介などにより、教職員一人一人の働き方に関する意識改革の取組を進めます。

【主な取組】 主な取組は、以下全て再掲

学校現場における統合型校務支援システムを活用した勤務時間管理の徹底を図るとともに、定時退校日や最終退校時刻、学校閉校日の設定等の取組を促進します。

- < 具体的な事業 > No.5 学校組織のマネジメント力の向上と教職員の意識改革
No.78 統合型校務支援システムの活用促進

管理職のマネジメント力を高めるための研修や、管理職と推進役になる職員との合同研修、若年者向けタイムマネジメント研修などを実施し、教職員一人一人の働き方に関する意識改革を推進します。

- < 具体的な事業 > No.5 学校組織のマネジメント力の向上と教職員の意識改革

各市町村教育委員会及び各学校が行う働き方改革の取組の進捗状況を確認し、検証を行うとともに、他県や推進校等での先進的な事例の収集・情報提供を行います。また、保護者や地域等の学校における働き方改革に対する理解増進のための啓発を行います。

- < 具体的な事業 > No.5 学校組織のマネジメント力の向上と教職員の意識改革

学校組織体制の改善・強化を図るとともに、きめ細かな指導を行っていくため、小・中学校の全ての学年を35人以下とし、効果的・効率的な教職員の配置に取り組むとともに、引き続き、国に対して教職員定数の改善・充実を提言します。さらに、全ての小学校において、学校の規模に応じた教科担任制を導入し、教員の負担軽減も図ります。

- <具体的な事業> No.5 学校組織のマネジメント力の向上と教職員の意識改革
No.2 学校経営を基盤とした組織力の強化

共同学校事務室の機能強化を図り、「学校事務の適正化及び効率化」「教職員の資質向上」「校務運営への参画による教育活動の充実」などを推進することにより、学校の『総合力』を向上させ、学校が抱える課題に的確に対応し、学校運営を円滑に推進することができる体制を構築します。

- <具体的な事業> No.4 学校事務体制の強化

長期休業期間中の休日の確保のための一つの選択肢として、「1年単位の变形労働時間制」を活用し、教育職員が休日のまとめ取りができる環境を整えるとともに、長期休業期間における研修や業務の見直し、縮減などの取組を進めます。

- <具体的な事業> No.5 学校組織のマネジメント力の向上と教職員の意識改革

取組 2-(2) 業務の効率化・削減

【現状・課題】

- ・部活動ガイドラインに沿った取組の実施や研修等の見直しなど、教職員の負担軽減や学校の業務改善を図る取組の実施によって一定の成果は見られるものの、長時間勤務の抜本的な改善には至っていません。

【取組のポイント】

- ・教職員の専門性が求められる業務の精選やデジタル技術の活用により、業務の効率化を図ります。
- ・これまで学校が担ってきた業務を整理し、学校が担うべき業務、スクールカウンセラーなど専門性をもった外部人材や事務職員等と連携・分担すべき業務、保護者・地域等の協力により分担すべき業務など、役割分担の明確化・適正化を進めます。

【主な取組】

各学校において、統合型校務支援システムを効果的に活用し、指導要録や学習評価等を電子化するとともに教材等の情報共有を行うなど、校務の効率化を図ります。

- <具体的な事業> No.78 統合型校務支援システムの活用促進

テストの採点や成績処理に係る自動採点システムの導入を拡充するとともに、給与支給の事務処理に係る諸手当・年末調整システムやアンケートシステム等の活用を進めることにより、教職員の業務の削減及び効率化を図ります。

- <具体的な事業> No,6 業務の効率化・削減
No,77 学校のICT環境整備(GIGAスクール構想の実現)

各学校において、県や市町村の部活動ガイドライン等に沿った休養日や活動時間等の適正な計画を立てるとともに、着実に実施することを徹底します。あわせて、スポーツ庁及び文化庁が示す「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、地域・学校の実情に応じた学校部活動の地域連携・地域移行の在り方等を検討し、それを踏まえた地域のスポーツ環境の整備等のための支援を実施します。

- <具体的な事業> No,48 運動部活動の運営の適正化
No,49 運動部活動指導員配置事業
No,50 文化部活動指導員・支援員の活用

学校現場の負担軽減を図るため、県教育委員会の調査や照会、事業等について精選を行い、削減や簡素化に取り組みます。

- <具体的な事業> No,6 業務の効率化・削減

教員が学校で児童生徒と向き合う時間を確保できるよう、県が実施する集合研修等を精選し、集合研修とオンデマンドやライブ配信によるオンライン研修を効果的に組み合わせ実施します。また、遠隔教育システムを活用した教育センターと県東部・西部の会場での双方向配信による研修を拡充し、移動時間の短縮に取り組みます。

- <具体的な事業> No,6 業務の効率化・削減

各学校において、学校行事や業務の精選、効率化、縮減に向けた取組が推進されるよう、他県や推進校での先進的な事例の収集・情報提供などによる支援を行います。

- <具体的な事業> No,6 業務の効率化・削減

取組 2-(3) 専門スタッフ・外部人材の活用

【現状・課題】

- ・必ずしも教員が担わなくてもよい業務に、専門スタッフ・外部人材を活用することで、教員の負担感の軽減や個々の児童生徒への指導・支援の充実につながっています。

【取組のポイント】

- ・教職員の負担感の軽減や長時間勤務の縮減に向けて、専門スタッフ・外部人材の配置拡充を進めます。

【主な取組】

教員の業務負担の軽減を図り、児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備し、学校教育活動の充実につなげるため、教員の専門性を必要としない業務に従事する教員業務支援員の配置拡充を図ります。

<具体的な事業> No,10 教員業務支援員活用事業

教員の部活動指導にかかる負担を軽減し、生徒に向き合う時間を確保するため、専門的な指導ができる部活動支援員や、単独での部活動指導や学校外での活動の引率なども可能な部活動指導員の配置拡充を図ります。また、スポーツ庁及び文化庁が示す「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、地域・学校の実情に応じた学校部活動の地域連携・地域移行の在り方等を検討し、それを踏まえた地域のスポーツ環境の整備等のための支援を実施します。

<具体的な事業> No,48 運動部活動の運営の適正化

No,49 運動部活動指導員配置事業

No,50 文化部活動指導員・支援員の活用

子どもや保護者等が不安や悩みをいつでも気軽に相談できる体制を構築するため、心理や福祉に関する専門的な見地から学校・教員を支えるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを全ての公立学校に配置します。

<具体的な事業> No,55 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用事業

各学校が放課後等を実施する補充学習を支援するため、地域の人材や大学生等による学習支援員の配置を進めます。

<具体的な事業> No,9 放課後等における学習支援事業

No,23 学習支援員事業

保護者や地域の方等が学校のさまざまな活動に参画し、地域全体で子どもを見守り育てる体制が構築されることにより、教員が教育活動により一層力を注ぐことができるよう、地域学校協働本部の活動内容の充実及びコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入促進を図ります。

<具体的な事業> No,87 地域学校協働活動推進事業

No,8 コミュニティ・スクールの推進

いじめをはじめとする生徒指導上の問題について、法律の専門家である弁護士(スクールロイヤー)を学校等に派遣し、その専門的知識・経験をもとに、法的側面から学校を支援する体制を整えます。

<具体的な事業> No,43 いじめ防止対策等総合推進事業

1人1台タブレット端末を活用したICT教育を推進するため、県立学校に「情報通信技術支援員」(ICT支援員)を配置するとともに、教員の取組をサポートする「ICT授業アドバイザー」や「GIGAスクールサポーター(県立特別支援学校)」を県教育委員会事務局内に配置します。また、市町村立学校におけるICT支援員の人材確保を支援します。

<具体的な事業> No.77 学校のICT環境整備(GIGAスクール構想の実現)

【取組の指標】

横断的取組2の指標	現状	参考値	R5年度末の目標数値
時間外在校等時間の上限時間である月45時間以内、年360時間以内を遵守できた教員の割合 (ただし、児童生徒等に係る臨時的な特別の事情がある場合は、月100時間未満、年720時間以内)	時間外在校等時間が月45時間以内の教員の割合 ・小:30.2% ・中:20.4% ・義務:21.7% (校務支援員配置校(85校)) (R4.4~R5.1月) (R4県調査)	時間外在校等時間が45時間以内の教員の割合 ・小:29.7% ・中:17.1% ・義務:18.2% (校務支援員配置校(66校)) (R3.4~R4.1月) (R3県調査)	・小:100% ・中:100% ・義務:100%
	県立 ・中:47.0% ・高:65.4% ・特:98.6% (全校) (R4.4~R5.1月) (R4県調査)	県立 ・中:45.1% ・高:68.8% ・特:98.6% (全校) (R3.4~R4.1月) (R3県調査)	県立 ・中:100% ・高:100% ・特:100%